

令和3年度

# 授 業 概 要

学校法人 穴吹学園

専門学校 穴吹リハビリテーションカレッジ

理学療法学科

校訓

日  
々  
是  
是  
前  
進

穴吹夏次

# 目 次

## 令和3年度 カリキュラム

理学療法学科カリキュラム .....	1
--------------------	---

## 令和3年度 授業概要

科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 .....	5
人体の構造と機能及び心身の発達 .....	15
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 .....	25
保健医療福祉とリハビリテーションの理念 .....	39
基礎理学療法学 .....	42
理学療法評価学 .....	48
理学療法治療学 .....	54
地域理学療法学 .....	72
臨床実習 .....	75

令和3年度

# カリキュラム

理学療法学科カリキュラム (平成31年度入学生用)

分野	教育内容	授業科目	単位数	単位時間	1年		2年		3年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野 17単位	科学的思考の基盤 人間と生活 17単位	心 理 学	2	15	30					
		情 報 科 学	1	30	30					
		生 化 学	1	30	30					
		統 計 学	2	15		30				
		教 育 学	2	15	30					
		社 会 福 祉 学	1	30	30					
		人 間 工 学	1	30		30				
		物 理 学	2	15	30					
		医 療 接 遇	1	15	15					
		人 間 育 成 学 I	1	30	30					
		人 間 育 成 学 II	1	30			30			
英 語	2	15	30							
基 礎 分 野 合 計			17		255	60	30	0	0	0
専門基礎分野 32単位	人体の構造と機能 及び心身の発達 16単位	解 剖 学 I	2	30	60					
		解 剖 学 II	2	30	60					
		解 剖 学 III	2	30		60				
		解 剖 学 実 習	1	30	15	15				
		体 表 面 解 剖 学 I	1	30	30					
		体 表 面 解 剖 学 II	1	30		30				
		生 理 学 I	1	30	30					
		生 理 学 II	1	30		30				
		運 動 生 理 学 I	1	30		30				
		運 動 生 理 学 II	1	30			30			
		運 動 学 I	1	30	30					
		運 動 学 II	1	30		30				
		人 間 発 達 学	1	30	30					
		小 計	16		255	195	30	0	0	0
32単位	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の 促進 13単位	病 理 学	1	30		30				
		臨 床 心 理 学	1	30			30			
		一 般 臨 床 医 学	1	30		30				
		内 科 学 I	1	30		30				
		内 科 学 II	1	30			30			
		整 形 外 科 学 I	1	30		30				
		整 形 外 科 学 II	1	30			30			
		神 経 内 科 学	1	30			30			
		脳 神 経 外 科 学	1	30			30			
		精 神 医 学 I	1	30		30				
		精 神 医 学 II	1	30			30			
		小 児 科 学	1	30		30				
		老 年 学	1	30			30			
小 計	13		0	180	210	0	0	0		
3単位	保健医療福祉と リハビリテーションの 理念 3単位	リハビリテーション医学概論	2	15	30					
		保 健 医 療 福 祉 論	1	30		30				
		小 計	3		30	30	0	0	0	0
専 門 基 礎 分 野 合 計			32		285	405	240	0	0	0

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

理学療法学科カリキュラム(平成31年度入学生用)

分野	教育内容	授業科目	単位数	単位時間	1年		2年		3年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野	基礎理学療法学 9単位	基礎理学療法学Ⅰ	1	30		30				
		基礎理学療法学Ⅱ	1	30			30			
		基礎理学療法学Ⅲ	1	30			30			
		理学療法研究管理論	1	30				30		
		運動療法学	1	30			30			
		病態治療統合学	2	15				30		
		動作分析セミナー	1	30				30		
		画像診断学	1	30				30		
		小計	9		0	30	90	120	0	0
	理学療法評価学 8単位	理学療法評価学Ⅰ	1	30	30					
		理学療法評価学Ⅱ	1	30		30				
		理学療法評価学Ⅲ	1	30			30			
		評価学演習	2	22.5				45		
		日常生活活動評価学Ⅰ	1	30			30			
		日常生活活動評価学Ⅱ	1	30				30		
		理学療法評価応用学	1	30				30		
		小計	8		30	30	60	105	0	0
	理学療法治療学 23単位	運動療法学演習	2	22.5				45		
		物理療法学Ⅰ	1	30			30			
		物理療法学Ⅱ	1	30				30		
		義肢学	1	30				30		
		装具学	1	30			30			
		理学療法技術論	1	30				30		
中枢神経系理学療法Ⅰ		1	30			30				
中枢神経系理学療法Ⅱ		1	30				30			
神経筋疾患の理学療法		1	30				30			
発達障害の理学療法		1	30				30			
呼吸器疾患の理学療法		1	30				30			
循環器疾患の理学療法		1	30				30			
生活習慣病の理学療法		1	30			30				
臨床整形外科理学療法Ⅰ		2	15			30				
臨床整形外科理学療法Ⅱ		2	15				30			
臨床整形外科理学療法Ⅲ		2	15				30			
理学療法治療応用学		1	30				30			
ペーパーペーシェントセミナー	2	15						30		
小計	23		0	0	150	375	30	0		
地域理学療法学 5単位	地域理学療法学	1	30				30			
	生活環境学Ⅰ	2	15			30				
	生活環境学Ⅱ	2	15				30			
	小計	5		0	0	30	60	0	0	
臨床実習 23単位	体験見学実習	1	45		45					
	評価実習Ⅰ	2	45			90				
	評価実習Ⅱ	2	45				90			
	臨床実習Ⅰ	9	45					405		
	臨床実習Ⅱ	9	45						405	
	小計	23		0	45	90	90	405	405	
専門分野合計			68		30	105	420	750	435	405

総合計	117	570	570	690	750	435	405
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位。

理学療法学科カリキュラム (令和2・3年度入学生用)

分野	教育内容	授業科目	単位数	単位時間	1年		2年		3年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野 14単位	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 14単位	心 理 学	2	15	30					
		情 報 科 学	1	30	30					
		生 化 学	2	15	30					
		統 計 学	2	15			30			
		人 間 工 学	1	30		30				
		物 理 学	1	30	30					
		コミュニケーション論	1	30	30					
		英 語	2	15			30			
		人 間 育 成 学 I	1	30	30					
		人 間 育 成 学 II	1	30			30			
基 礎 分 野 合 計			14		180	30	90	0	0	0
専門基礎分野 30単位	人体の構造と機能 及び心身の発達 12単位	解 剖 運 動 学 I	2	30	60					
		解 剖 運 動 学 II	2	30	60					
		解 剖 生 理 学 I	3	30	90					
		解 剖 生 理 学 II	3	30	90					
		解 剖 学 実 習	1	30		30				
		人 間 発 達 学	1	30		30				
		小 計	12		300	60	0	0	0	0
	疾病と障害の成り 立ち及び回復過程 の促進 14単位	臨 床 心 理 学	1	30		30				
		一 般 臨 床 医 学	2	30		60				
		リハビリテーション診断学	2	30			60			
		リハビリテーション整形外科学	2	30		60				
		リハビリテーション神経学	2	30		60				
		リハビリテーション内科学	2	30		60				
		精 神 医 学	1	30		30				
小 児 科 学	1	30		30						
老 年 学	1	30			30					
小 計	14		0	330	90	0	0	0		
保健医療福祉と リハビリテーションの 理念 4単位	リハビリテーション医学概論	2	15	30						
	理 学 療 法 概 論	1	30		30					
	保 健 医 療 福 祉 論	1	30			30				
	小 計	4		30	30	30	0	0	0	
専 門 基 礎 分 野 合 計			30		330	420	120	0	0	0

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位

理学療法学科カリキュラム(令和2・3年度入学生用)

分野	教育内容	授業科目	単位数	単位時間	1年		2年		3年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野	基礎理学療法学 6単位	基礎理学療法学Ⅰ	1	30			30			
		基礎理学療法学Ⅱ	1	30			30			
		基礎理学療法学Ⅲ	1	30			30			
		基礎理学療法学Ⅳ	1	30			30			
		日常生活活動学	1	30			30			
		理学療法研究論	1	30				30		
	小計	6		0	0	150	30	0	0	
	理学療法管理学 2単位	理学療法管理学	2	15					30	
		小計	2		0	0	0	0	30	0
	理学療法評価学 6単位	理学療法評価学Ⅰ	2	30		60				
		理学療法評価学Ⅱ	2	30			60			
		理学療法評価学Ⅲ	1	30				30		
		動作分析セミナー	1	30				30		
	小計	6		0	60	60	60	60	0	0
	理学療法治療学 20単位	運動療法学	3	30			90			
		物理療法学	1	30				30		
		義肢装具学Ⅰ	1	30			30			
		義肢装具学Ⅱ	1	30				30		
		整形外科疾患の理学療法Ⅰ	2	30				60		
		整形外科疾患の理学療法Ⅱ	2	30				60		
		整形外科疾患の理学療法Ⅲ	1	30				30		
中枢神経疾患の理学療法Ⅰ		2	30				60			
中枢神経疾患の理学療法Ⅱ		1	30				30			
内部障害の理学療法Ⅰ		1	30				30			
内部障害の理学療法Ⅱ		1	30				30			
内部障害の理学療法Ⅲ		1	30				30			
発達障害の理学療法		1	30				30			
ペーパーペーシェントセミナー		2	30						60	
小計	20		0	0	120	420	60	0		
地域理学療法学 3単位	地域理学療法学	1	30				30			
	生活環境学Ⅰ	1	30			30				
	生活環境学Ⅱ	1	30				30			
	小計	3		0	0	30	60	0	0	
臨床実習 21単位	見学実習	1	45		45					
	評価実習Ⅰ	2	45			90				
	評価実習Ⅱ	2	45				90			
	総合臨床実習Ⅰ	8	45					360		
	総合臨床実習Ⅱ	8	45						360	
	小計	21		0	45	90	90	360	360	
専門分野合計			58		0	105	450	660	450	360

総合計	102		510	555	660	660	450	360
-----	-----	--	-----	-----	-----	-----	-----	-----

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。  
 ※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位



令和3年度

# 授 業 概 要

**科学的思考の基盤**

**人間と生活**

**社会の理解**

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
心理学		理学療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	大久保 智生
授業の概要				
心理学の各領域について概説し、心理学の基礎的知識を習得する。 前半(第2回~第8回)は、心理学の基礎について概説し、後半(第9回~第13回)は、身近な心に関する問題からわかりやすく解説していく予定である。				
授業終了時の到達目標				
心理学の基礎に触れることを通じて、人間理解の方法を深める。また、心に関する様々な問題に対して、多角的な視点からの思考を可能にする。				
時間外に必要な学修				
前回配布の資料を読み直すこと。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	心理学を学ぶことの意味 心理学の各領域の研究紹介		
2	心理学とは	知覚心理学、学習心理学、発達心理学、性格心理学、自己心理学、家族心理学、社会心理学の説明		
3	記憶	知覚すること、図と地、錯視、知覚の主観性 物理的環境と心理的環境		
4	知覚	記憶のメカニズム、記憶の変容、想起時につくられる記憶、自伝的記憶、偽の記憶		
5	心理測定	心理測定とは 心理測定の種類		
6	犯罪	犯罪心理学とは、プロファイリングとは 犯罪別の心理学		
7	性格	性格を捉える、性格の形成と変容に関する理論 性格の形成要因		
8	学習	学習の重要性、新たな行動様式の学習メカニズム やる気と無気力		
9	動機づけ	生理的動機づけ、社会的動機づけ 社会的動機:達成動機づけ、内発的動機づけなど		
10	認知、目撃証言	犯罪目撃証言の信頼性について		
11	いじめ、ハラスメント	いじめの定義と類型、いじめの集団力学 ハラスメントとは、ハラスメントの35種類		
12	学力低下、虐待	学力低下問題における指摘、学校問題と非学校問題 虐待の種類、虐待経験がもたらすもの		
13	対人関係、対人認知	対人認知について コミュニケーションと対人行動		
14	適応	適応と不適応		
15	発達	発達とは、発達段階と発達課題 発達移行期、文化と発達期待		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・実践をふりかえるための教育心理学 (ナカニシヤ出版)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報科学		理学療法学科/1年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	井内 健二
授業の概要				
「情報」の意味および価値を理解するとともに、一般情報のデジタル化、さらにデジタル化された情報をIT (Information Technology) を使って有効な形態に加工し活用する技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
業務上のレポート作成、データ集計資料作成、Web上での情報検索、プレゼンテーション資料作成など情報活用技術全般の基礎を習得する。				
時間外に必要な学修				
前回配布の資料を読み直すこと。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	授業内容の紹介、パソコン起動、フォルダ作成、文章入力、ファイル保存、印刷、PCのシャットダウン		
2	フォルダ作成と圧縮ファイルの解凍 タイピング練習ソフトでタッチタイピング練習	フォルダ作成、ミカタイプの圧縮ファイルの解凍法 ミカタイプの使い方、ミカタイプでタイピング練習		
3	社内文書の作成	「社内研修のお知らせ」の作成		
4	社内文書の作成2	「社内研修のお知らせ」の作成(続き)		
5	社内文書の作成3	「資産運用セミナー開催のご案内」の作成		
6	インフォーマルな文書の作成	「同期親睦会のご案内」の作成		
7	Excelデータ入力 「スケジュール表」作成	Excelの画面の説明 スケジュール表を計算式を利用して作成		
8	「個別売上表」(Excel)作成	「個別売上表」(Excel)作成		
9	Excelでグラフ作成とワードの 差し込み印刷	Excelでグラフ作成 ワードの差し込み印刷		
10	プレゼンテーション	プレゼンテーションの仕方 色の話、簡単なスライド作成		
11	Power Pointについて(基本操作)	「プレゼンテーションテクニック」の作成		
12	Wordでレポート作成の学習	ケーススタディの作成練習 サンプルファイルのダウンロード		
13	Power Pointを使って プレゼンテーションの作成	「プレゼンテーションテクニック」の作成(続き)		
14	WordファイルからPower Pointファイルへの 連携法の学習	WordファイルからPower Pointファイルへの連携法の学習		
15	Wordのレポート作成に便利な機能の 学習	クイックパーツの登録、Snipping Toolの使い方 スクリーンショットの使い方		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・配布資料		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生化学		理学療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	宇山 徹
授業の概要				
生物は絶えず何かしらの反応を生体内で行っており、そこには多様な分子が関与している。生化学の授業では、生体内での生命現象を分子レベル、つまりタンパク質や遺伝子がどの様に制御されているのかを学ぶ事を目的とする。また、糖質、脂質やビタミンなどの分子についても理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
生化学の授業の内容に沿った試験を行うことで、個人の生化学の授業の理解度を高める。				
時間外に必要な学修				
前回配布の資料を読み直すこと。				
回	テーマ	内容		
1	細胞の構造	細胞の基本骨格である細胞膜や核などの構造について学ぶ		
2	細胞骨格	細胞の構造を維持している細胞内タンパク質などについて学ぶ		
3	細胞の増殖、死およびアミノ酸の性質	細胞の増殖や死がどのように制御されているかを学ぶ また、タンパク質を構成しているアミノ酸についても学ぶ		
4	たんぱく質の構造、核酸、糖類について	タンパク質の基本構造、DNAを構成している核酸、グルコースなどに代表される糖質について学ぶ		
5	核酸、糖質、脂質について	核酸、糖質、脂質の構造や機能などについて学ぶ		
6	脂質、酵素、ビタミンについて	脂質やビタミンについて学ぶ また、生体内での反応を触媒する酵素について学ぶ		
7	酵素、ビタミン、ホルモンについて	酵素、ビタミン、内分泌に関わるホルモンについて学ぶ		
8	ホルモン、輸送たんぱく質、受容体について	ホルモン、物質の輸送に関わる輸送タンパク質、細胞外からの刺激を細胞内へと伝達する受容体などについて学ぶ		
9	受容体たんぱく質、防御たんぱく質(免疫)について	受容体タンパク質、免疫や生体防御に関わる防御タンパク質について学ぶ		
10	防御たんぱく質、構造たんぱく質について	防御タンパク質、細胞-細胞間を構成する細胞外マトリックスなどに存在する構造タンパク質について学ぶ		
11	遺伝子の構造、DNAの複製	遺伝子やDNAの意味、細胞分裂時にDNAが複製される機構について学ぶ		
12	DNAの複製、染色体、細胞分裂について	DNAの複製、染色体の構造と細胞分裂との関係などについて学ぶ		
13	転写、翻訳、細胞分裂について	遺伝子からRNAが転写される機構について学ぶ		
14	たんぱく質への翻訳	RNAからタンパク質がどのように翻訳されるかについて学ぶ		
15	今までの講義の演習問題	今まで行ってきた講義内容に関連する選択問題や記述問題を実施する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
はじめの一步イラスト生化学・分子生物学(羊土社)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
統計学		理学療法学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	藤田 和憲
授業の概要				
つぎの項目が主とした目的・ねらいである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本統計量の計算になれる。</li> <li>・確率変数</li> <li>・各種分布を理解する。</li> <li>・各種の統計量の推定の意味を理解する。</li> <li>・各種の統計量の検定の意味を理解する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
以下の項目等が達成されることを到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本統計量を計算できる。</li> <li>・確率変数</li> <li>・各種分布を適用できる。</li> <li>・相関係数、回帰直線を求めることができる。</li> <li>・平均値、比率、適合度、独立性の検定ができる。</li> </ul>				
時間外に必要な学修				
前回配布の資料を読み直すこと。				
回	テーマ	内容		
1	データ解析と統計学の必要性について	高校の数学 I におけるデータ分析の復習		
2	偏差平方和、分散、標準偏差の計算	分散の計算を正確に行えるよう適宜、定理を使用して計算を行う		
3	散布図、共分散、相関係数、回帰直線	偏差の積和の計算について		
4	回帰直線による予測	回帰直線を使用してデータの予測をする		
5	事象の確立、確率分布、確率変数の期待値	事象の確立の定義に基づいて、確率問題をとく		
6	二項分布、正規分布と正規分布表	二項分布と正規分布表による確率計算をとく		
7	データの標準化、正規分布の応用	一般の正規分布の確率計算を行う		
8	中心極限定理、母平均の区間確定	標本平均の値により、母平均の推定を行う		
9	母比率の区間推定、母平均の両側検定	推定比率誤差の計算などを行う		
10	母平均の片側検定、t 分布、t 分布表、母平均の区間推定	母平均の片側検定の例題などを行う		
11	母平均の t 検定、Excel による統計解析	母平均の両側 t 検定を行う		
12	適合度検定、独立性の検定	適合度検定と独立性の検定を行う		
13	独立性の検定など	独立性の検定、条件付きの確立などを行う		
14	統計関数、相関係数の検定	Excel の統計関数、相関係数の検定を行う		
15	まとめ	二項分布の正規分布近以、大標本における平均値の差の両側検定を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT・OTのための統計学入門 (三輪書店)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間工学		理学療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	田中 裕介
授業の概要				
立位、立ち上がり動作の運動学的分析方法を身につける。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトの安定性に関わる因子を挙げることができる</li> <li>・安静立位姿勢、立ち上がり動作について見るべきポイントを列挙、観察できる。 また、姿勢を文章化することが出来る。</li> <li>・正常歩行周期を述べる事が出来る。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 病院勤務経験を活かし、姿勢や動作分析をイメージしやすく授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
履修した解剖学(骨関節系)と運動学を復習する。				
回	テーマ	内容		
1	人間工学の概要説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常における人間工学の考え方の紹介</li> <li>・臥位から立ち上がりまでの用語説明</li> </ul>		
2	力学①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つり合いの原理(モーメントについての理解)</li> </ul>		
3	力学②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベクトルの合成と分解</li> <li>・傾斜台での荷重量計算</li> </ul>		
4	立位姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本姿勢における重心の位置</li> <li>・立位アライメントの確認</li> </ul>		
5	立位姿勢の制御①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重心と支持基底面との関係性</li> </ul>		
6	立位姿勢の制御②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立位時の足関節における床反力と関節モーメントとの関係性</li> </ul>		
7	立位姿勢の制御③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立位時の膝関節における床反力と関節モーメントとの関係性</li> </ul>		
8	立位姿勢の制御④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立位時の股関節における床反力と関節モーメントとの関係性</li> </ul>		
9	立位姿勢の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立位姿勢分析方法のポイント説明</li> <li>・立位分析(文章化)</li> </ul>		
10	立ち上がり動作①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立ち上がり動作での重心と支持基底面との関係</li> </ul>		
11	立ち上がり動作②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立ち上がり動作のシーケンス</li> </ul>		
12	立ち上がり動作③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立ち上がり動作の筋活動</li> </ul>		
13	立ち上がり動作評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立ち上がり動作分析のポイント説明</li> <li>・立ち上がり動作分析(文章化)</li> </ul>		
14	歩行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常な歩行周期</li> </ul>		
15	授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床でトランスファーなどでの授業内容活用方法紹介</li> <li>・授業全体の振り返り</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎運動学(医歯薬出版)</li> <li>基礎バイオメカニクス(医歯薬出版)</li> </ul>		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理学		理学療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村上 匡司
授業の概要				
国家試験問題が読解できるレベルまでの物理学基礎を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
国家試験が解ける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修				
基礎物理程度の予習。				
回	テーマ	内容		
1	物理学概要	① 国家試験問題との関連について、② 単位について、③ 有効数字について		
2	直線運動について	① 国家試験問題との関連について、② 等速度運動について、③ 等加速直線運動について		
3	投射について 章末問題(第2章)	① 水平投射について、② ベクトルについて、③ 斜方投射について		
4	運動と力との関係	① 運動の三原則について、② 斜面上での運動について、③ 国家試験問題との関連について		
5	摩擦力について 章末問題(第3章)	① 静止摩擦力と動摩擦力、② 静止摩擦力の最大値、③ 摩擦係数について		
6	圧力のはたらき (復習: 圧力、大気圧)	① 圧力について、② 酸素ポンプの使用可能時間について、③ 気圧について		
7	水圧と浮力 (復習: 水圧、浮力)	① 水圧について、② 国家試験問題との関連について、③ 浮力について		
8	モーメント(1)	① てこについて、② つり合いについて、③ 国家試験問題との関連について		
9	モーメント(2) 章末問題(第4章)	① てこについて、② つり合いについて、③ 国家試験問題との関連について		
10	仕事について (復習: 仕事と仕事率)	① 仕事、仕事率の単位について、② 斜面の仕事について、③ 国家試験問題との関連		
11	エネルギーについて 章末問題(第5章 ①、②のみ)	① 位置エネルギーについて、② 運動エネルギーについて、③ 力学的エネルギーの保存について		
12	運動量について 章末問題(第6章 ①、②のみ)	① 力積について、② 運動量と力積との関係について、③ 運動量保存の法則について		
13	熱エネルギー 章末問題(第7章 ②、③のみ)	① 固体、液体、気体の関係について、② 熱量保存の法則について、③ 体積と温度、圧力との関係について		
14	波の性質について 章末問題(第8章 ①のみ)	① 波をつくっているものについて、② 周期と振動数について、③ 横波と縦波について		
15	まとめ	総まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
まるわかり! 基礎物理(南山堂)		期末試験	100%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション論		理学療法学科/1年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	坂口 千恵美・横川 光代
授業の概要				
PTとして、実習に出るまで、また臨床で働くまでに必ず身に付けるべきコミュニケーションスキルや社会人としてのマナーなどを修得する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感の高い、心身ともに健康な医療人となる。</li> <li>・主体性をもって行動できる、自律した医療人になる。</li> <li>・基本的な臨床技能としてのコミュニケーション力を身に付けた医療人になる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		坂口千恵美：理学療法士として5年以上の実務経験 横川 光代：理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修				
学内で挨拶や他クラスの学生へのコミュニケーションをスムーズに取れるように心がける。 社会人としてのマナーやモラルを常に心がけ日常生活を送る				
回	テーマ	内 容		
1	コミュニケーションとは	・PTに必要なコミュニケーション力とは		
2	基本的な立ち居振る舞い、言葉遣い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい挨拶のルール</li> <li>・敬語の使い方</li> </ul>		
3	コミュニケーション実践編① 聞くスキル、質問のスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傾聴のポイント、頷き、相づち</li> <li>・オープンクエスチョン、クローズドクエスチョン</li> </ul>		
4	コミュニケーション実践編② 伝えるスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Iメッセージ、YOUメッセージ</li> <li>・許可を得るための枕詞</li> </ul>		
5	コミュニケーション実践編③ 観察のスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みる力を養う為に</li> <li>・観察した事を記録・報告する</li> </ul>		
6	自己実現のための方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成のための自己管理</li> <li>・行動目標と行動目標</li> </ul>		
7	社会人の常識①	・上座、下座等社会人としての一般的なマナー		
8	社会人の常識②	・TPOに合わせた服装、言葉づかい		
9	社会人の常識③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙の書き方</li> <li>・電話の掛け方、受け方</li> </ul>		
10	臨床で役立つコミュニケーションスキル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療面接とはなにか</li> <li>・医療面接での対話のしかた</li> </ul>		
11	臨床で役立つコミュニケーションスキル②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手との関係を築く方法</li> <li>・質問の仕方</li> </ul>		
12	臨床で役立つコミュニケーションスキル③	・相手を会話に乗せる方法		
13	臨床で役立つコミュニケーションスキル④	・相手から話を引き出す方法(聴く技術)		
14	臨床で役立つコミュニケーションスキル⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症のかたとのコミュニケーション</li> <li>・スパーバイザーとのコミュニケーション</li> </ul>		
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験対策</li> <li>・国試過去問など</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT・OTのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド(医学書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
英語		理学療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	Michael Newlin
授業の概要				
医学英語・リハビリテーション基礎英語を勉強し、練習する				
授業終了時の到達目標				
医学英語・リハビリテーション基礎英語が理解、使用できる				
時間外に必要な学修				
事前にテキストに目を通して予習をしておくこと				
回	テーマ	内容		
1	Introductions, English Rhythm & Basic Accent Patterns	A. 基本発音練習(L, R) B. リハビリテーション英語: 領域・専門家		
2	Rehabilitation Sites	A. 基本発音練習(L, R) B. リハビリテーションの現場		
3	Fundamentals of the Human Body	A. 基本発音練習(F, V, B, P) B. 人体の基礎知識		
4	Body Structure: Skeletal System	A. 基本発音練習(S, SH, TH) B. 人体の構造: 骨格系		
5	Body Structure: Vertebral Column, Bones & Joints	A. 基本発音練習(A, E, O) B. 人体の構造: 脊柱・骨・関節		
6	Body Structure: Muscular System	A. 基本発音練習(EA/EE, I, O, U) B. 人体の構造: 筋肉系		
7	Body Structure: Nervous System	A. 基本発音練習(AR, ER, IR, OR, UR) B. 人体の構造: 神経系		
8	Body Structure: Nervous Subsystems	A. 基本発音練習(A, AN, THE) B. 人体の構造: 神経系, サブ系と様々な働き		
9	Bone Fractures: Classification & Treatment	骨折・分類と治療・大腿骨頸部骨折の運動療法		
10	Chronic Back Pain	慢性腰痛・腰痛の運動療法		
11	Arthritis	関節炎・変形性膝関節症の運動療法・関節リウマチの運動療法		
12	Sports Injury	スポーツ傷害・スポーツ外傷・傷害療法		
13	Parkinson's Disease	パーキンソン病・脳卒中・片麻痺の患者の日常動作		
14	Dysphagia & Translation Exercise 1	嚥下障害・英文の和訳実習①		
15	Chronic Obstructive Pulmonary Disease & Translation Exercise 2	慢性閉塞性肺疾患・英文の和訳実習②		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
リハビリテーションの基礎英語(MEDICAL VIEW) 配布資料		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間育成学 I		理学療法学科/1年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村上 匡司・坂口 千恵美
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療人としての人間性、資質を培う。</li> <li>・問題解決のための自己学習の手続きを学ぶ。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
・医療人としての資質、人間性、社会的マナーを習得				
実務経験有無		実務経験内容		
有		村上 匡司：理学療法士として5年以上の実務経験 坂口千恵美：理学療法士として5年以上の実務経験 問題解決のための自己学習プロセスを教示し、情報共有についても言及する。		
時間外に必要な学修				
評価学、解剖学・運動学の教科書や授業資料を再読し復習しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 構成的グループエンカウンター	科目のねらい、到達目標について		
2	骨関節①	グループ学習		
3	骨関節②	グループ学習		
4	骨関節③	グループ学習		
5	骨関節④	グループ学習		
6	運動学①	グループ学習		
7	運動学②	グループ学習		
8	運動学③	グループ学習		
9	形体測定①	グループ学習		
10	形体測定②	グループ学習		
11	形態測定③	グループ学習		
12	関節可動域テスト①	グループ学習		
13	関節可動域テスト②	グループ学習		
14	関節可動域テスト③	グループ学習		
15	まとめ	確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
各種書籍、資料等		総合判定	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間育成学Ⅱ		理学療法学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	横川 光代・宮内 貴志子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療人としての人間性、資質を培う。</li> <li>・問題解決のための自己学習の手続きを学ぶ。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
・医療人としての資質、人間性、社会的マナーを習得				
実務経験有無		実務経験内容		
有		横川 光代：理学療法士として5年以上の実務経験 宮内貴志子：理学療法士として5年以上の実務経験 問題解決のための自己学習プロセスを教示し、情報共有についても言及する。		
時間外に必要な学修				
評価学、解剖学・運動学の教科書や授業資料を再読し復習しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 構成的グループエンカウンター	科目のねらい、到達目標について		
2	骨関節①	グループ学習		
3	骨関節②	グループ学習		
4	骨関節③	グループ学習		
5	骨関節④	グループ学習		
6	運動学①	グループ学習		
7	運動学②	グループ学習		
8	運動学③	グループ学習		
9	形体測定①	グループ学習		
10	形体測定②	グループ学習		
11	形態測定③	グループ学習		
12	関節可動域テスト①	グループ学習		
13	関節可動域テスト②	グループ学習		
14	関節可動域テスト③	グループ学習		
15	まとめ	確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
各種書籍、資料等		総合判定	100%	

# 人体の構造と機能及び 心身の発達

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖運動学 I		理学療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中嶋 志保
授業の概要				
四肢及び体幹の機能解剖について理解し、運動療法や動作分析に必要な基本的事項を学習する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主要な関節について関節構成体の構造と機能を理解する。</li> <li>・ 関節運動について、作用する筋および運動を正しい用語で説明できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 正常運動理論を臨床でどのように活用するかを交えながら授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
解剖運動学Ⅱ(体表面解剖)の内容と併せて復習するとよい。				
回	テーマ	内 容		
1	骨格概要①	骨格を構成する骨の名称		
2	骨格概要②	グループ学習		
3	骨の構造	骨の分類 長管骨の構造		
4	骨の連結	各関節の名称 グループ学習		
5	関節の基本構造	連結の分類 滑膜性連結の一般構造		
6	関節運動の表現	方向と位置を表す用語 グループ学習		
7	筋学総論	筋組織の種類と特徴 骨格筋の構造		
8	骨格筋	筋の作用 興奮収縮連関		
9	全身の骨格筋①	全身の骨格筋の名称		
10	全身の骨格筋②	グループ学習		
11	肩関節の構造と機能①	解剖学的関節と機能的関節		
12	肩関節の構造と機能②	腱板の機能 第2肩関節の構造と機能		
13	肩関節の構造と機能③	肩関節の病態と運動		
14	肘関節の構造と機能①	肘部管、Carrying angle 肘関節の運動と筋		
15	肘関節の構造と機能②	肘関節の病態と運動		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖運動学 I		理学療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中嶋 志保
回	テーマ	内 容		
16	手関節の構造と機能①	手関節の構造、手根管 手関節の運動と筋		
17	手関節の構造と機能②	手のアーチ 手の変形(伸展機構障害と末梢神経障害)		
18	手関節の構造と機能③	手関節、指関節の病態と運動		
19	股関節の構造と機能①	股関節の形態と特徴 アライメントと各指標		
20	股関節の構造と機能②	股関節の運動と筋 股関節のバイオメカニクス		
21	股関節の構造と機能③	股関節の病態と運動		
22	膝関節の構造と機能①	膝蓋大腿関節の構造と機能 脛骨大腿関節の構造と機能		
23	膝関節の構造と機能②	膝関節の運動と筋 膝関節の伸展機構		
24	膝関節の構造と機能③	膝関節の病態と運動		
25	足関節の構造と機能①	足関節、足部の構成体と機能 足関節の運動と筋		
26	足関節の構造と機能②	足のアーチ 足関節の病態と運動		
27	脊柱の構造と機能	脊柱の一般的構造		
28	頸椎の構造と機能	頸椎の運動と筋		
29	胸椎および胸郭の構造と機能	胸椎、胸郭の構造と運動 呼吸運動		
30	腰椎および骨盤の構造と機能	腰椎の構造と運動 腰椎と骨盤の関係		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PT・OTのための運動学テキスト (金原出版)</li> <li>・ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 (医学書院)</li> </ul>		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖運動学Ⅱ		理学療法学科/1年	2021/前期	実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	田中 裕介
授業の概要				
体表面に骨や筋の位置や走行を投影し、触察できるようになる。				
授業終了時の到達目標				
上肢・下肢・体幹の骨と関節を触察できる。 上肢・下肢・体幹の筋を触察できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 治療で活用してきた触診技術を学生がイメージしやすく授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
筋を触察する上で、起始・停止・走行・作用を頭に入れて置くことが重要である。				
回	テーマ	内 容		
1	・触察のための基本技術と注意事項 ・肩甲骨(後面)の触察	・触診の基礎と技術・肩甲骨(後面)のランドマークの名称 ・肩甲骨(後面)の各ランドマークの触察実習		
2	・鎖骨の触察 ・上腕骨の触察	・鎖骨、上腕骨のランドマークの名称 ・鎖骨、上腕骨の各ランドマークの触察実習		
3	・烏口突起、上腕骨近位部の骨指標の触察	・烏口突起、三角筋粗面、大結節、小結節、結節間溝の触察		
4	・肩関節周囲筋の触察	・三角筋、僧帽筋(上部、中部、下部)、広背筋、大円筋の触察		
5	・肩回旋筋群の触察	・棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋の触察		
6	・肩甲骨の挙上・上方・下方回旋筋の触察	・大菱形筋、小菱形筋、肩甲挙筋、前鋸筋の触察		
7	・上腕骨及び肩甲骨から体幹に付着する筋の触察	・大胸筋(鎖骨部、胸骨部、腹部線維)、小胸筋、鎖骨下筋の触察		
8	・上腕部の筋群の触察	・上腕二頭筋(長頭・短頭)、上腕筋、烏口腕筋、上腕三頭筋の触察		
9	・前腕の骨指標の触察	・上腕骨上顆、上顆稜・尺骨の触察(肘頭、肘頭窩、尺骨体、尺骨茎状突起)・橈骨の触察(橈骨頭、橈骨骨幹、橈骨茎状突起、リスター結節)		
10	・手根骨と中手骨の触察	・豆状骨、三角骨、有鉤骨、舟状骨、大菱形骨、小菱形骨、有頭骨、月状骨の触察・中手骨の触察		
11	・前腕伸筋群の触察	・肘筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、総指伸筋、尺側手根伸筋、小指伸筋、示指伸筋の触察 ・母指の動きと主動作筋 ・長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋の触察		
12	・前腕屈筋群の触察	・腕橈骨筋、円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋の触察		
13	・母指球筋の触察 ・小指球筋の触察	・母指対立筋、短母指外転筋、短母指屈筋、母指内転筋の触察 ・小指外転筋、小指屈筋、小指対立筋の触察 ・虫様筋、掌側・背側骨間筋の作用の理解		
14	・骨盤・下肢の骨指標の触察	・骨盤、大腿骨、下腿骨の骨指標の確認と説明		



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖運動学Ⅱ		理学療法学科/1年	2021/前期	実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	田中 裕介
回	テーマ	内容		
15	・胸骨、肋骨の触察	・胸骨(胸骨柄、胸骨体、剣状突起)の触察 ・肋軟骨、肋骨の触察		
16	・脊柱起立筋群の触察	・棘筋、最長筋、腸肋筋、多裂筋の触察		
17	・頸部、後頭部の筋群の触察 ・腰部、腹部の筋群の触察	・頭板状筋、後頭筋群の触察・腰方形筋、腹直筋、内・外腹斜筋、横隔膜、肋間筋の触察		
18	・頭部の骨指標の触察 ・気管、甲状軟骨、舌骨の触察	・外後頭隆起、上項線、乳様突起、頬骨弓、茎状突起、下顎角、下顎枝、下顎頭、筋突起の触察・輪状軟骨、甲状軟骨、舌骨の触察		
19	・頭部、頸部筋群の触察 ・頸部の動脈と分泌腺の触察	・胸鎖乳突筋、斜角筋、咬筋、側頭筋、舌骨上・舌骨下筋群の触察 ・総頸動脈、側頭動脈、顔面動脈の触察 ・耳下腺、顎下腺、甲状腺の触察		
20	・骨盤の骨指標の触察 ・大転子の触察 ・骨盤の靭帯の触察	・上前腸骨棘、下前腸骨棘、腸骨稜、腸骨窩、上後腸骨棘、坐骨結節、仙骨、尾骨、恥骨、仙腸関節の触察 ・大転子の触察		
21	・大腿前面の筋群の触察	・内転筋群(恥骨筋、長内転筋、大内転筋、薄筋)の触察 ・縫工筋、大腿筋膜張筋、腸脛靭帯、大腿四頭筋の触察		
22	・腸骨筋、大腰筋の触察	・腸骨筋、大腰筋の触察		
23	・大腿後面の筋群の触察・後膝窩部の触察・鵞足を構成する筋群の触察	・大腿二頭筋、半腱・半膜様筋、膝窩筋の触察 ・後膝窩部の筋群の位置関係の確認・鵞足の触察		
24	・膝関節の骨指標と靭帯の触察 ・足関節と足部の骨指標と靭帯の触察	・膝蓋骨、脛骨体、脛骨粗面、脛骨高原、関節裂隙、腓骨頭、大内転筋結節の触察、足根骨と中足骨の触察		
25	・下腿後面の筋群の触察	・腓腹筋、足底筋、ヒラメ筋、後脛骨筋、長母趾屈筋、長趾屈筋の触察		
26	・足底部の筋群の触察	・母趾外転筋、小趾外転筋、短趾屈筋		
27	まとめ	上肢		
28	まとめ	下肢		
29	まとめ	下肢		
30	まとめ	体幹		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) ・プロメテウス解剖学コアアトラス (医学書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖生理学 I		理学療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	平岡 英樹
授業の概要				
神経系(中枢神経系および末梢神経系)の構造(つくり)および機能(はたらき)について教授する。				
授業終了時の到達目標				
1年次後期の「リハビリテーション神経学」、2年次の「中枢神経系理学療法 I・II」、「神経筋疾患の理学療法」を学習するための基礎となる知識を定着させる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期・神経難病病院での経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修				
授業中に提示される重要ポイントおよびキーワードの復習をすること				
回	テーマ	内容		
1	神経系総論(1)	神経系の構造と機能の概要		
2	神経系総論(2)	神経細胞の基本的構造と機能		
3	神経系総論(3)	神経系の発生		
4	中枢神経系(1)	中枢神経系の構造と機能の概要		
5	中枢神経系(2)	大脳の機能の概要		
6	中枢神経系(3)	前頭葉の構造と機能		
7	中枢神経系(4)	頭頂葉の構造と機能		
8	中枢神経系(5)	側頭葉の構造と機能		
9	中枢神経系(6)	後頭葉の構造と機能		
10	中枢神経系(7)	高次脳機能(1)		
11	中枢神経系(8)	高次脳機能(2)		
12	中枢神経系(9)	学習と記憶		
13	中枢神経系(10)	大脳辺縁系の構造と機能		
14	中枢神経系(11)	大脳基底核の構造と機能(1)		
15	中枢神経系(12)	大脳基底核の構造と機能(2)		
16	中枢神経系(13)	間脳の構造と機能(1)		
17	中枢神経系(14)	間脳の構造と機能(2)		
18	中枢神経系(15)	脳幹の構造と機能: 中脳		
19	中枢神経系(16)	脳幹の構造と機能: 橋		
20	中枢神経系(17)	脳幹の構造と機能: 延髄		
21	中枢神経系(18)	意識、脳波と睡眠		
22	中枢神経系(19)	小脳の構造と機能(1)		
23	中枢神経系(20)	小脳の構造と機能(2)		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖生理学 I		理学療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	平岡 英樹
回	テーマ	内 容		
24	中枢神経系(21)	脊髄の構造と機能		
25	中枢神経系(22)	脊髄反射		
26	中枢神経系(23)	姿勢反射		
27	中枢神経系(24)	伝導路の構造と機能		
28	末梢神経系(1)	末梢神経系の構造と機能の概要		
29	末梢神経系(2)	脊髄神経の構造と機能		
30	末梢神経系(3)	末梢神経の構造と機能(1)		
31	末梢神経系(4)	末梢神経の構造と機能(2)		
32	末梢神経系(5)	自律神経系の構造と機能		
33	末梢神経系(6)	脳神経の構造と機能(1)		
34	末梢神経系(7)	脳神経の構造と機能(2)		
35	末梢神経系(8)	脳神経の構造と機能(3)		
36	感覚器系(1)	感覚器系の概要		
37	感覚器系(2)	皮膚感覚の受容器と伝導路		
38	感覚器系(3)	深部感覚の受容器と伝導路		
39	感覚器系(4)	関節の感覚器の構造と機能		
40	感覚器系(5)	嗅覚器の構造と機能		
41	感覚器系(6)	味覚器の構造と機能		
42	感覚器系(7)	平衡聴覚器の構造と機能(1)		
43	感覚器系(8)	平衡聴覚器の構造と機能(2)		
44	感覚器系(9)	視覚器の構造と機能(1)		
45	感覚器系(10)	視覚器の構造と機能(2)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)</li> <li>プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第3版(医学書院)</li> </ul>		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖生理学Ⅱ		理学療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	宮内 貴志子
授業の概要				
内部障害に対し理学療法を行うための基礎知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
・恒常性を保つための、各臓器の役割を説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 理学療法との接点を交えながら授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
その日のうちに授業資料と教科書を見直す。資料をファイリングする。				
回	テーマ	内 容		
1	解剖生理学とは	これから学ぶ内容について		
2	解剖学的位置と役割	各臓器の位置関係を理解する		
3	血液①	血液の組成と機能①		
4	血液②	血液の組成と機能②		
5	心臓と循環	血液の循環、心臓・血管の構造		
6	動脈と静脈①	全身をめぐる動脈と静脈① 大循環と小循環		
7	動脈と静脈②	全身をめぐる動脈と静脈② 腹部と脳 臓器循環		
8	心臓の興奮と刺激伝導系	刺激伝導系と心電図		
9	血圧	血圧とその調節		
10	静脈還流、リンパ循環	静脈還流量の調節 リンパ管の構造と役割		
11	呼吸について	外呼吸と内呼吸		
12	呼吸器系の解剖	上気道と下気道 肺葉 肺区域 肺胞		
13	呼吸運動	吸息と呼息 呼吸調節		
14	ガス交換とガスの運搬	肺におけるガス交換と血液によるガス交換		
15	これまでのまとめ	循環器 呼吸器 脈管系の振り返り		
16	泌尿器系の解剖と機能	腎臓と泌尿器の構造と機能		
17	尿の生成と排泄	尿の生成 水分調整 血圧調整		
18	尿の生成と排泄	畜尿と排尿反射		
19	血圧調整	排尿と血圧の関係		
20	酸塩基平衡について	肺と腎臓の関係 酸塩基平衡について		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖生理学Ⅱ		理学療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	宮内 貴志子
回	テーマ	内容		
21	嚥下機能と発声①	咀嚼と嚥下機能 食道の役割		
22	嚥下機能と発声②	咀嚼と嚥下機能 食道の役割		
23	胃の役割と消化	食物貯蔵と輸送 胃液と消化		
24	小腸(十二指腸)	膵液と胆汁		
25	小腸と大腸の役割と解剖	小腸の栄養吸収 リンパ管		
26	大腸と排便	直腸と排便反射		
27	肝臓の役割と機能	肝臓の役割と胆汁産生		
28	栄養の合成①	消化吸収と栄養の合成		
29	栄養の合成②	消化吸収と栄養の合成		
30	まとめ	振り返りとまとめ		
31	細胞とエネルギー①	エネルギーの合成		
32	細胞とエネルギー②	エネルギーの合成		
33	代謝	基礎代謝とエネルギー代謝		
34	体温の調節①	体熱の産生と放熱		
35	体温の調節②	体温の調節と異常		
36	内分泌系①	ホルモンの役割 外分泌と内分泌		
37	内分泌系②	ホルモンの種類		
38	内分泌系③	ホルモンの作用		
39	内分泌系④	ホルモンの作用		
40	免疫について	自然免疫と獲得免疫		
41	生殖器系①	男性の生殖器		
42	生殖器系②	女性の生殖器		
43	生殖器系③	受精・着床・胎児の発生		
44	老化	生理的老化		
45	まとめ	振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学(医学書院)		期末試験 確認テスト	50% 50%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学実習		理学療法学科/1年	2021/後期	演習・実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村上 匡司・坂口 千恵美
授業の概要				
<p>人体を構成する器官は、立体的に体格を構築すると共に、体腔内に立体的に納まっている。立体的な認識を得るためには、丁寧な予習に裏付けられた知識と実習室における系統的な観察が重要であり、構造と機能の相関理解に努めることで目的は達成できる。同時に篤志献体された方々のご厚意に触れ、医療人としてあるべき姿を心に刻む。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の基本構造を学習し、筋骨格系、末梢神経系、脈管系、内臓系の構造と機能を理解する。</li> <li>・人体の立体的構造を立体視できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		村上 匡司：理学療法士として5年以上の実務経験 坂口千恵美：理学療法士として5年以上の実務経験 問題解決のための自己学習プロセスを教示する。		
時間外に必要な学修				
教科書を授業前に確認しておくこと。				
回	テーマ	内 容		
1	スケッチ学習 1	上肢帯の骨と筋のスケッチ		
2	スケッチ学習 2	下肢帯の骨と筋のスケッチ		
3	スケッチ学習 3	スケッチ復習		
4	グループ成果発表 1	骨の構造と骨改変の課題		
5	グループ成果発表 2	関節面の形態と靭帯の課題		
6	グループ成果発表 3	筋の構造と収縮連関の課題		
7	グループ成果発表 4	神経の構造と伝導・シナプス伝達の課題		
8	グループ成果発表 5	上肢の神経と血管の走行の課題		
9	グループ成果発表 6	下肢の神経と血管の走行の課題		
10	グループ成果発表 7	呼吸器系の課題		
11	グループ成果発表 8	循環系の課題		
12	グループ成果発表 9	消化器系の課題		
13	グループ成果発表 10	泌尿器系の課題		
14	グループ成果発表 11	内分泌系の課題		
15	解剖実習見学	筋骨格系の形と走行、神経血管系との位置関係を観察		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準理学療法学・作業療法学</li> <li>・専門基礎分野 解剖学 (医学書院)</li> <li>・プロメテウス解剖学コアアトラス (医学書院)</li> </ul>		習熟度試験 (2回) グループ成果発表	50% 50%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間発達学		理学療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮内 貴志子
授業の概要				
胎児期から新生児期、乳児期、学童期から青年期、老年期に至るまでの、身体的な成長・発達および精神的な発達を学び、それぞれの時期の発達の特徴を理解する。また、成長・発達に関係する因子と発達理論および発達評価法の概略を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達的一般原則、発達理論の概略を理解する。</li> <li>・発育・発達関係する因子を説明でき、発育・発達に与える影響と理論を理解する。</li> <li>・新生児期に必要な原始反射と姿勢反射を説明できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の経験 胎児期からの発達をイメージしやすいように展開する。		
時間外に必要な学修				
生涯発達に興味を持ちテキストを読み返してください。				
回	テーマ	内 容		
1	人間発達学総論	人間発達とは 発達にみられる諸原則		
2	胎児期について	発達段階と課題について(総論) 胎児期の子宮環境について		
3	出産と新生児期について	出生に伴う呼吸や心臓機能の変化 胎児循環と肺呼吸		
4	乳児期の発達(0から3か月頃)	哺乳と原始反射 姿勢の変化と身体機能		
5	乳児期の発達(3から6か月頃)	乳児期の姿勢と定頸・寝返りの獲得 姿勢変化と立ち直り反応の出現		
6	乳児期の発達(7から9か月頃)	座位保持・四つ這い・腹ばいの獲得		
7	乳児期の発達(10から12か月頃)	歩行の獲得 平衡反応の充実		
8	原始反射と姿勢反射・平衡反応総論	脳の発達と原始反射・立ち直り反応・平衡反応の出現		
9	幼児期前半の発達課題	幼児期の遊びと学習 家庭内での学習		
10	幼児期の発達評価	幼児期の発達スクリーニング評価		
11	幼児期後半の発達	目と手の協調性 食事と嚥下機能(哺乳から自己摂食)		
12	学童期の発達	集団での学習と発達		
13	青年期の発達	自己同一性の獲得		
14	成人期の発達	親世代の発達と役割について		
15	老年期の発達 まとめ	総括と重要ポイント復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる人間発達(医歯薬出版)		期末試験 確認テスト	90% 10%	

# **疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進**



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床心理学		理学療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	福田 琴
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理分野の疾患の理解。</li> <li>各疾患の治療法を学ぶ。</li> <li>自分たちの職種が出来る範囲の事を知る。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理分野の疾患を理解する。</li> <li>各疾患の治療法を理解する。</li> <li>自分たちの職種で出来る各疾患の治療を学ぶと共に、自分で考える。</li> </ul>				
時間外に必要な学修				
授業前に教科書、配布資料を確認しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	臨床心理学概論	臨床心理学の歴史 各種心理テストの概略 など		
2	神経症 1 (不安障害)	不安障害の種類 強迫性障害とパニック障害に対する暴露療法 など		
3	神経症 2 (身体表現性障害)	転換性障害のメカニズム 心気症と心身症の違い など		
4	神経症 3 (解離性障害) 適応障害	解離性障害の防衛メカニズム 離人症性障害の症状 など		
5	人格障害 1	各クラスターに属するパーソナリティ障害 など		
6	人格障害 2	パーソナリティ障害の合併 クラスターC (回避性パーソナリティ障害など)		
7	摂食障害 統合失調症について	神経性無食欲症、過食発作 統合失調症の概念、歴史、下位分類		
8	依存症 気分障害について	依存症の種類、依存と乱用の違い 双極性障害と大うつ病の違い、認知行動療法		
9	てんかん 睡眠障害 性障害について	てんかんの原因、発作の種類、脳波の特徴 睡眠・覚醒リズム障害の概要、性障害の分類		
10	子供の精神障害とその周辺について 1	精神遅滞と知能指数の関係、学習障害の種類 注意欠陥・多動性障害の原因と症状		
11	子供の精神障害とその周辺について 2	社会問題となった子供の異常の数々を知る。 児童虐待について		
12	老化とその障害 リラクゼーションについて	アルツハイマー型認知症と血管性認知症の違い 各種リラクゼーション法の概要		
13	精神療法 力動精神療法	フロイト精神分析、家族療法、集団療法 力動精神療法の流れ、自我心理学の概要		
14	認知行動療法 支持療法	認知行動療法の概要、ベックの方法論 支持療法の歴史、心理療法的アプローチ		
15	薬物療法 セルフアセスメント	薬物の種類と副作用、脳内ホルモンの働き 臨床心理学全体の総括		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学 (医学書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
一般臨床医学		理学療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	村上 匡司・宮内 貴志子
授業の概要				
医学一般について幅広く知識を深めていく学問であり、代表的な疾患の概要や症状、治療などについて習得する。				
授業終了時の到達目標				
代表的な疾患について理解を深めるとともに、基礎医学との関連性を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		村上 匡司：理学療法士として5年以上の実務経験 宮内貴志子：理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修				
各疾患の病態について復習をしておく。				
回	テーマ	内容		
1	臨床医学総論(1)	基本的な専門用語とその意味や定義など		
2	臨床医学総論(2)	基本的な専門用語とその意味や定義など		
3	臨床医学総論(3)	基本的な専門用語とその意味や定義など		
4	臨床医学総論(4)	基本的な専門用語とその意味や定義など		
5	臨床医学総論(5)	基本的な専門用語とその意味や定義など		
6	臨床医学総論(6)	基本的な専門用語とその意味や定義など		
7	臨床医学総論(7)	基本的な専門用語とその意味や定義など		
8	臨床医学総論(8)	基本的な専門用語とその意味や定義など		
9	臨床医学総論(9)	基本的な専門用語とその意味や定義など		
10	電解質異常	症状や徴候について		
11	脳神経外科疾患	主要な疾患の特徴と症状などについて		
12	膠原病	主要な疾患の特徴と症状などについて		
13	その他の疾患について	主要な疾患の特徴と症状などについて		
14	国家試験問題の解説、前半のまとめ	まとめと振り返り		
15	救急法の基礎講習(1)	心肺停止とは 発見した時の対応		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
一般臨床医学		理学療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	村上 匡司・宮内 貴志子
16	救急法の基礎講習(2)	胸骨圧迫と人工呼吸 除細動器		
17	バイタルサインについて(1)	アンダーソンの基準 リハビリテーション中止基準とは		
18	バイタルサインについて(2)	正常値と運動療法中止の違い		
19	バイタルサインについて(3)	血圧と脈拍の異常		
20	バイタルサインについて(4)	呼吸数と酸素飽和度の異常		
21	バイタルサインについて(5)	体温調節、発熱、意識の異常		
22	リスク管理とは	医療におけるリスク管理		
23	感染と感染予防	感染経路別対策		
24	感染と感染予防	標準予防策		
25	がん患者のリハビリテーションについて(1)	がんとは 診断とは		
26	がん患者のリハビリテーションについて(2)	治療の効果と副作用		
27	がん患者のリハビリテーションについて(3)	造血幹細胞の移植前リハビリテーション		
28	がん患者のリハビリテーションについて(4)	手術療法とリンパ浮腫		
29	がん患者のリハビリテーションについて(5)	緩和ケアと終末期医療		
30	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT・OT・STのための一般臨床医学 (医歯薬出版)		期末試験 実技(救急法基礎講習)	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション診断学		理学療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	村上 匡司
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 画像の種類や特徴などについて学ぶ。</li> <li>・ 画像から得られる情報に気付くトレーニングを行う。</li> <li>・ 得られた情報から考えられる病態を模索する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異常所見を見つけることができる。</li> <li>・ 画像所見を述べるができる。</li> <li>・ 画像所見から予測できる臨床症状、それに関連する評価項目を述べるができる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修				
解剖学の復習。				
回	テーマ	内容		
1	画像の基本と検査法について	骨折のX線診断の基本、撮影方向について、X線、CT、MRI、DSA、CAG、SPECTとPET、ECGなど		
2	脊椎、脊髄の画像(1)	頸椎、胸椎および腰椎の正面像と側面像について、解剖学的な位置関係と実際の画像とを照らし合わせる		
3	脊椎、脊髄の画像(2)	椎間板ヘルニア、OPLL、黄色靭帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、脊髄損傷、強直性脊椎炎、化膿性脊椎炎など		
4	脊椎、脊髄の画像(3)	椎間板ヘルニア、OPLL、黄色靭帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、脊髄損傷、強直性脊椎炎、化膿性脊椎炎など		
5	脊椎、脊髄の画像(4)	椎間板ヘルニア、OPLL、黄色靭帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、脊髄損傷、強直性脊椎炎、化膿性脊椎炎など		
6	脊椎脊髄画像のまとめ、確認テスト	まとめと確認テスト		
7	四肢、関節の画像(1)	股関節、膝関節および足関節の正面像と側面像について、解剖学的な位置関係と実際の画像とを照らし合わせる		
8	四肢、関節の画像(2)	骨折の原因による分類、開放骨折と皮下骨折、骨折治癒の異常過程について、脱臼、骨折、大腿骨頭壊死など		
9	四肢、関節の画像(3)	骨折の原因による分類、開放骨折と皮下骨折、骨折治癒の異常過程について、脱臼、骨折、大腿骨頭壊死など		
10	四肢、関節の画像(4)	骨折の原因による分類、開放骨折と皮下骨折、骨折治癒の異常過程について、脱臼、骨折、大腿骨頭壊死など		
11	四肢関節画像のまとめ、確認テスト	まとめと確認テスト		
12	頭部の画像(1)	脳表から前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉を区分、細分を行い、実際の画像で簡単な同定を行う		
13	頭部の画像(2)	正常CT画像から部位の同定、解剖学的位置関係の確認、立体的構造の確認など		
14	頭部の画像(3)	MRIのT1、T2画像について、脳血管障害の画像経過、虚血再灌流障害とその画像、脳血流など		
15	頭部の画像(4)	MRIのT1、T2画像について、脳血管障害の画像経過、虚血再灌流障害とその画像、脳血流など		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション診断学		理学療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	村上 匡司
回	テーマ	内容		
16	頭部画像のまとめ、確認テスト	まとめと確認テスト		
17	胸腹部の画像(1)	肺水腫と胸水、その原因、胸水と無気肺との画像上での識別について、無気肺、各サインと代表的な陰影など		
18	胸腹部の画像(2)	肺水腫と胸水、その原因、胸水と無気肺との画像上での識別について、無気肺、各サインと代表的な陰影など		
19	胸腹部の画像(3)	肺水腫と胸水、その原因、胸水と無気肺との画像上での識別について、無気肺、各サインと代表的な陰影など		
20	胸腹部の画像(4)	肺水腫と胸水、その原因、胸水と無気肺との画像上での識別について、無気肺、各サインと代表的な陰影など		
21	胸部画像のまとめ、確認テスト	まとめと確認テスト		
22	UCG、CAG、ECG(1)	各画像の意義、正常波形の成り立ち、肢誘導と胸部誘導から得られる情報について、代表的な不整脈など		
23	UCG、CAG、ECG(2)	各画像の意義、正常波形の成り立ち、肢誘導と胸部誘導から得られる情報について、代表的な不整脈など		
24	UCG、CAG、ECG(3)	各画像の意義、正常波形の成り立ち、肢誘導と胸部誘導から得られる情報について、代表的な不整脈など		
25	UCG、CAG、ECG(4)	各画像の意義、正常波形の成り立ち、肢誘導と胸部誘導から得られる情報について、代表的な不整脈など		
26	ECGのまとめ、確認テスト	まとめと確認テスト		
27	モニターECGの読解(1)	さまざまなモニターECGの波形を読解することで、各不整脈の特徴を捉え、画像所見としてのECGをマスターする		
28	モニターECGの読解(2)	さまざまなモニターECGの波形を読解することで、各不整脈の特徴を捉え、画像所見としてのECGをマスターする		
29	モニターECGの読解(3)	さまざまなモニターECGの波形を読解することで、各不整脈の特徴を捉え、画像所見としてのECGをマスターする		
30	モニターECGの読解(4)	さまざまなモニターECGの波形を読解することで、各不整脈の特徴を捉え、画像所見としてのECGをマスターする		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・画像診断コンパクトナビ (医学教育出版社)		期末試験 確認テスト	50% 50%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション整形外科学		理学療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	横川 光代
授業の概要				
整形外科の一般的疾患について病態と治療について必要な知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整形外科の一般的疾患に対する病態を理解する。</li> <li>・ 診断方法、治療方法(手術・保存)を理解し、リハビリテーションの実施に役立てる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 手術後療法、保存療法の経験談を交えながら授業を進める。		
時間外に必要な学修				
前回の資料を確認して復習、テキストを用いて次回の予習をする。				
回	テーマ	内容		
1	運動器の生理①(骨・関節)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 骨の構造・分類、骨の成長と骨代謝</li> <li>・ 関節の構造、関節軟骨の機能</li> </ul>		
2	運動器の生理②(神経)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神経の種類、シナプス伝達</li> <li>・ 各伝導路の復習</li> </ul>		
3	運動器の生理③(筋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 骨格筋の分類</li> <li>・ 骨格筋の収縮、収縮の種類</li> </ul>		
4	運動器の整形外科、診療の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保存療法、手術療法</li> <li>・ 各治療法の合併症</li> </ul>		
5	運動器の整形外科、治療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診察、症候、診断に利用される各種検査</li> </ul>		
6	骨折・脱臼①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 骨折・脱臼総論</li> <li>・ 上肢の骨折・脱臼</li> </ul>		
7	骨折・脱臼②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上肢の骨折・脱臼</li> </ul>		
8	骨折・脱臼③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下肢の骨折・脱臼</li> </ul>		
9	骨折・脱臼④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下肢の骨折・脱臼</li> <li>・ 脊椎・骨盤の骨折</li> </ul>		
10	変形性関節症①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病態、疫学</li> </ul>		
11	変形性関節症②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 変形性膝関節症、保存、手術療法</li> </ul>		
12	変形性関節症③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 変形性股関節症、保存、手術療法</li> </ul>		
13	関節リウマチ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 概念・疫学・病態</li> </ul>		
14	関節リウマチ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関節症状、関節外症状、検査、診断</li> </ul>		
15	関節リウマチ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 治療、薬物療法</li> </ul>		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション整形外科学		理学療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	横川 光代
回	テーマ	内容		
16	上肢の疾患	・肩関節周囲炎、腱板断裂、腱鞘炎		
17	下肢の疾患	・大腿骨頭壊死、大腿骨頭すべり症、足部変形		
18	スポーツ外傷・障害①	・ACL損傷、PCL損傷、足関節靭帯損傷、アキレス腱断裂		
19	スポーツ外傷・障害②	・野球肘、テニス肘、離断性骨軟骨炎、肩峰下インピンジメント症候群		
20	骨端症	・Perthes病、Osgood-Schlatter病、Kohler病等		
21	骨腫瘍	・骨腫瘍の特徴、臨床像、画像診断、合併症		
22	先天性異常症候群	・先天性疾患の病態、合併症、診断、治療		
23	熱傷	・熱傷深度、関節拘縮の治療		
24	末梢神経損傷①	・末梢神経損傷の分類、病態、症状 ・下肢の末梢神経損傷		
25	末梢神経損傷②	・腕神経叢損傷、胸郭出口症候群の症状、診断、治療		
26	末梢神経損傷③	・正中神経、橈骨神経、尺骨神経の症状、診断、治療		
27	脊椎・脊髄疾患①	・脊椎、脊髄の解剖(復習) ・各伝導路(復習)		
28	脊椎・脊髄疾患②	・myelopathyとradiculopathyの症状の違い ・脊椎・脊髄疾患の種類		
29	脊髄損傷①	・発生要因、病態、症状、高位診断		
30	脊髄損傷②	・脊髄損傷と機能的予後、リハビリテーション		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病気がみえるvol.11 運動器・整形外科 (メディックメディア)		小テスト 期末試験	40% 60%	小テストは週1回 実施

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション神経学		理学療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	平岡 英樹
授業の概要				
リハビリテーションの対象となる脳血管障害、神経筋難病、末梢神経障害等の発症機序や治療法および理学療法プログラムを教授する。				
授業終了時の到達目標				
各疾患の発症機序、疫学、診断法と治療法を理解する。 病態に応じた適切な理学療法プログラムを立案するための基礎となる知識を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期・神経難病病院での経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修				
症状発現のメカニズムを理解するため、解剖生理学 I の知識を復習すること。				
回	テーマ	内 容		
1	総論	神経系の疾患とリハビリテーション		
2	脳血管障害総論	脳血管の構造と機能 脳血管障害の概要		
3	脳梗塞(1)	アテローム血栓性脳梗塞 心原性脳塞栓症		
4	脳梗塞(2)	ラクナ梗塞、BAD、TIA		
5	脳梗塞(3)	脳梗塞の画像診断		
6	脳梗塞(4)	脳梗塞の急性期治療		
7	脳梗塞(5)	閉塞部位に特徴的な脳梗塞(1)		
8	脳梗塞(6)	閉塞部位に特徴的な脳梗塞(2)		
9	脳内出血(1)	被殻出血、視床出血、皮質下出血の診断と治療		
10	脳内出血(2)	脳幹出血、小脳出血の診断と治療		
11	クモ膜下出血(1)	脳動脈瘤について		
12	クモ膜下出血(2)	クモ膜下出血の診断と治療		
13	高次脳機能障害	失語症、失行症、失認症		
14	脳静脈・髄液循環障害	水頭症、正常圧水頭症		
15	頭蓋内圧亢進	脳浮腫、脳ヘルニア		



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション神経学		理学療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	平岡 英樹
回	テーマ	内容		
16	頭部外傷	頭蓋骨骨折、急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫、慢性硬膜下血腫、脳挫傷、びまん性軸索損傷		
17	脳腫瘍	神経膠腫、髄芽腫、悪性リンパ腫、血管芽腫、髄膜腫、神経鞘腫、下垂体腺腫、転移性脳腫瘍		
18	認知症(1)	認知症総論、Alzheimer型認知症		
19	認知症(2)	Lewy小体型認知症、前頭側頭型認知症、血管性認知症		
20	脊髄障害	脊髄損傷、脊髄梗塞、脊髄腫瘍、動静脈奇形、脊髄空洞症など		
21	末梢神経障害(1)	GBS、CIDP、Charcot-Marie-Tooth病		
22	末梢神経障害(2)	糖尿病性ニューロパチー、絞扼性ニューロパチー		
23	神経変性疾患(1)	神経変性疾患の総論、パーキンソン病と類縁疾患		
24	神経変性疾患(2)	脊髄小脳変性症と類縁疾患		
25	神経変性疾患(3)	筋萎縮性側索硬化症		
26	脱髄性疾患	多発性硬化症、視神経脊髄炎		
27	筋疾患(1)	筋強直性ジストロフィー、ミトコンドリア脳筋症、周期性四肢麻痺、重症筋無力症、Lambert-Eaton症候群		
28	感染性疾患	髄膜炎、脳膿瘍、脳炎、インフルエンザ脳症、Creutzfeldt-Jakob病		
29	代謝性疾患	Wernicke脳症など		
30	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病気が見える Vol.7 脳・神経 (メディックメディア)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション内科学		理学療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中嶋 志保
授業の概要				
リハビリテーションに関わりの深い内科系疾患について、疾患概念や病態を中心に基本的な知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
各臓器や器官の構造・機能と疾患の病態や症状との関連を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 臨床経験をいかして理学療法との接点を交えながら授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
次回の授業範囲について、テキストを読んで予習する。				
回	テーマ	内容		
1	呼吸器疾患	呼吸器系の構造と機能 呼吸器疾患の臨床症状と病態生理と治療		
2	呼吸器疾患	呼吸器疾患の臨床症状と病態生理と治療		
3	呼吸器疾患	呼吸器疾患の臨床症状と病態生理と治療		
4	呼吸器疾患	呼吸器疾患の臨床症状と病態生理と治療		
5	腎臓・泌尿器疾患	腎臓・泌尿器の構造と機能 腎臓疾患の臨床症状と病態生理と治療		
6	腎臓・泌尿器疾患	腎臓疾患の臨床症状と病態生理と治療		
7	腎臓・泌尿器疾患	腎臓疾患の臨床症状と病態生理と治療		
8	腎臓・泌尿器疾患	腎臓疾患の臨床症状と病態生理と治療		
9	肝胆膵疾患	肝胆膵系の構造と機能 肝臓疾患の臨床症状と病態生理と治療		
10	肝胆膵疾患	肝臓疾患の臨床症状と病態生理と治療		
11	内分泌系疾患	内分泌系の構造と機能 内分泌疾患の臨床症状と病態生理		
12	内分泌疾患	内分泌疾患の臨床症状と病態生理		
13	消化器疾患	消化器系の構造と機能 消化器疾患の臨床症状と病態生理		
14	心肺蘇生法	緊急時対応 突然死につながる疾患		
15	心肺蘇生法	心肺蘇生実技		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション内科学		理学療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中嶋 志保
回	テーマ	内容		
16	循環器疾患 虚血性心疾患	虚血性心疾患の概念 狭心症①		
17	循環器疾患 虚血性心疾患	狭心症②		
18	循環器疾患 虚血性心疾患	心筋梗塞①		
19	循環器疾患 虚血性心疾患	心筋梗塞②		
20	循環器疾患 虚血性心疾患	心臓弁膜症		
21	循環器疾患 心筋疾患	急性心筋炎など		
22	循環器疾患	心不全①		
23	循環器疾患	心不全②		
24	循環器疾患 先天性疾患	Fallot四徴候など		
25	循環器疾患 血管疾患	閉塞性動脈硬化症 深部静脈血栓症		
26	循環器疾患 血圧異常	本態性高血圧 ショックとは		
27	血液・造血器疾患	赤血球の異常、白血球の異常、止血機構の異常		
28	代謝性疾患	糖尿病①		
29	代謝性疾患	糖尿病②		
30	代謝性疾患	その他の代謝異常について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気がみえる Vol.2 循環器</li> <li>・病気がみえる Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌</li> <li>・病気がみえる Vol.4 呼吸器</li> <li>・病気がみえる Vol.5 血液</li> <li>・病気がみえる Vol.6 感染症</li> <li>・病気がみえる Vol.8 腎・泌尿器</li> </ul> (メディックメディア)		期末試験 確認テスト	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神医学		理学療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	植野 英一
授業の概要				
精神医学の基礎について学び、国家試験に準拠した内容を十分に理解し、理学療法業務に活かす。				
授業終了時の到達目標				
精神医学の基礎について、他者に説明できる。 全員が期末試験で6割以上正答できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の臨床経験 作業療法士としての経験を生かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
指定テキストを使用し、予習復習に努める。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要の説明 精神医学とは	授業概要の説明 精神医学とは、精神障害にかかわる概念		
2	精神障害の成因と分類	精神障害の成因、精神障害の分類 理学療法との関連事項		
3	精神機能の障害と精神症状 1	精神症状の把握、意識とその障害、注意と見当識の障害、 知能とその障害、性格とその障害		
4	精神機能の障害と精神症状 2	記憶とその障害、感情とその障害、知覚とその障害 自我意識とその障害、理学療法との関連		
5	精神障害の診断と評価	診断・評価の方法、病歴の聴取、身体的検査法、 心理検査法、精神症状の評価 ほか		
6	脳器質性精神障害	脳器質性精神障害とは、認知症とその特徴、大脳皮質の 変性疾患、血管性認知症 ほか		
7	症状性精神障害	症状性精神障害とは、主な疾患、理学療法との関連事項		
8	精神作用物質による精神および行動 の障害	精神作用物質による障害の定義、アルコール関連精神 障害、薬物依存による精神障害 ほか		
9	てんかん	てんかんとは、てんかんの発作症状と精神症状、てんかん 関連発作疾患の分類、経過と予後 ほか		
10	統合失調症およびその関連障害	統合失調症とは、疫学、精神症状の特徴、病型、成因 ないし病態 ほか		
11	気分(感情)障害	気分(感情)障害とは、うつ病、躁うつ病 持続性気分障害、経過および予後 ほか		
12	神経症性障害	神経症性障害のとらえ方、不安および恐怖を中心とする 神経症性障害、強迫を中心とする神経症性障害、ストレス 関連障害 ほか		
13	生理的障害および身体的要因に関連 した障害	生理的レベルと身体的レベルの障害、摂食障害、非器質性 の睡眠障害、性関連障害 ほか		
14	成人のパーソナリティ・行動・性の 障害	パーソナリティの障害、行動(習慣および衝動)の障害、 性の障害、理学療法との関連		
15	総まとめ	総まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学(医学書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
小児科学		理学療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮内 貴志子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供と大人の違い、小児疾患について理解を深める。</li> <li>・疾患を持った子供の成長に必要なこと。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児科についての理解を深めることができる。</li> <li>・小児科について興味を持てる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の経験 疾患を持った児や家族とのかかわりをイメージできるように展開する。		
時間外に必要な学修				
教科書以外のニュースなどへも関心を持ち情報収集を心掛けてください。				
回	テーマ	内容		
1	小児科学概論	小児の成長と発達		
2	小児科学概論	小児の栄養、保健、新生児スクリーニング		
3	小児疾患の治療	小児の検査、治療、薬物療法、水分補給、救急医療		
4	新生児、早期産児の病態	周産期の用語、出生時の評価、新生児仮死、アプガースコア、新生児黄疸、核黄疸		
5	新生児、早期産児の病態	低出生体重児、脳室周囲軟化症、頭蓋内出血		
6	先天異常と遺伝病	染色体(常染色体優性遺伝、常染色体劣性遺伝)		
7	先天異常と遺伝病	21トリソミー、18トリソミー ターナー症候群、心奇形、先天性代謝異常、フェニルケトン尿症		
8	神経・筋・骨疾患	脳の先天性奇形、脳性麻痺、てんかん、精神遅滞		
9	神経・筋・骨疾患	進行性筋ジストロフィー、重症筋無力症、発育性股関節脱臼、骨形成不全症		
10	循環器疾患	先天性心疾患、心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、チアノーゼ、ファローの四徴候		
11	呼吸器疾患	上気道炎、気管支炎、肺炎、酸素療法、人工換気療法		
12	感染症	麻疹、風疹、溶連菌感染症、百日咳、結核、無菌性髄膜炎、細菌性髄膜炎、インフルエンザ脳症		
13	消化器、内分泌疾患	腸重積、ロタウイルス感染症、ノロウイルス感染症、0-157感染症、肝炎、クレチン症、I型糖尿病		
14	その他の疾患	小児がん、白血病、アレルギー。川崎病		
15	その他の疾患	心身症、重症心身障害児		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 小児科学 (医学書院)		確認テスト 課題・レポート	50% 50%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
老年学		理学療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	坂口 千恵美
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体面・精神面・社会面・生活面の観点から高齢者の理解を深めていく。</li> <li>・老化にともなう生じる障害や病態について理解を深める。</li> <li>・高齢障害者における理学療法士の役割を考える。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・老化についてのメカニズムを理解する</li> <li>・老年期の身体的変化、精神的変化を理解する。</li> <li>・高齢者に特有な疾病について理解を深める。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の経験 急変時対応と在宅場面での問題点をイメージしやすく授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の内容を確認し、テキストを準備し内容を確認し予習する。</li> <li>・重要ポイントをテキストを通じて復習する。</li> <li>・高齢化社会についてニュースを通じて関心を持つ。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	高齢者とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年学の概要</li> <li>・高齢者とは</li> </ul>		
2	加齢に伴う心身機能の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動機能、感覚機能、平衡機能の低下</li> </ul>		
3	加齢に伴う心身機能の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生理的機能低下(呼吸・循環・代謝など)</li> </ul>		
4	加齢に伴う心身機能の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知能や精神機能の低下</li> </ul>		
5	高齢者の健康寿命	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防</li> <li>・サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム</li> <li>・服薬管理</li> </ul>		
6	老年症候群①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年症候群と生活機能障害</li> <li>・老年症候群と評価方法について</li> </ul>		
7	老年症候群②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健忘と認知症</li> <li>・うつ症状</li> </ul>		
8	老年症候群③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の病態と理学療法</li> </ul>		
9	老年症候群④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動器機能障害</li> </ul>		
10	老年症候群⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢の異常と転倒</li> <li>・転倒予防</li> </ul>		
11	寝たきり予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期臥床と寝たきり</li> <li>・二次的合併症の症状と予防</li> </ul>		
12	症例検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅での長期療養患者の介護と理学療法</li> </ul>		
13	嚥下機能と誤嚥性肺炎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常な嚥下機能</li> </ul>		
14	誤嚥性肺炎と予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誤嚥性肺炎の原因と予防</li> </ul>		
15	症例検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嚥下患者の理学療法</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者理学療法学テキスト(南江堂)</li> <li>・配布資料</li> </ul>		期末試験 小テスト・課題	50% 50%	小テスト・課題は 出席点を含む

**保健医療福祉と  
リハビリテーションの理念**

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション医学概論		理学療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	中内 英樹
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学の本質を探究しながら医学全般について理解し、医療に従事する専門職としての資質を養う。</li> <li>・リハビリテーション医学の本質を探究しながら、リハビリテーション医療の状況把握と今後の発展性について学ぶ。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の生命が医学においていかに取り扱われるべきかを科学的な立場と生命の価値観の立場から説明できる。</li> <li>・リハビリテーション医療に従事する専門職として、リハビリテーションの理念と今後の発展性について説明できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った経験を盛り込みながら教授する。		
時間外に必要な学修				
授業で習った用語をインターネット等で検索し理解を深める。				
回	テーマ	内容		
1	医学とはなにか	・医学の定義 ・医学の構成内容 ・医とは		
2	医道とはなにか	・医学の起源と歴史 ・医道とは		
3	サイエンスとアート	・ヒポクラテスの癒しの技 ・サイエンスとアートの特徴		
4	医学の発達のすがた	・近世の医学 ・20世紀以降の医学 ・我が国の医学の発達		
5	人間の生命を考える	・ライフサイエンスと医学 ・医の倫理と生命倫理 ・生きることの質(QOL)		
6	わが国の医療システムとその役割	・医療システム概要(一次、二次、三次医療) ・病気の段階と医療の役割と保健医療体系		
7	リハビリテーション医学の成り立ちと発展	・リハビリテーション医学の定義 ・リハビリテーションの歴史		
8	リハビリテーションの理念	・リハビリテーションの理念 ・トータルリハビリテーション ・医学的リハビリテーション		
9	リハビリテーションと障害学	・障害と疾病 ・疾病分類から障害分類へ		
10	国際障害分類と国際生活機能分類	・障害分類から生活機能分類へ ・国際生活機能分類 ・障害と環境		
11	日常生活活動(ADL)と生活・人生の質(QOL)	・ADLの定義と範囲 ・ADL評価の意義 ・QOLの概念と定義 ・QOL評価の意義 ・ADLからQOLへ		
12	障害者心理と障害受容	・身体障害者の心理的反応とステージ理論 ・障害の受容と障害への適応 ・心理機制と対応方法		
13	リハビリテーション医学の対象	・生物学的医学と生活リハビリテーション医学 ・リハビリテーション医学の構造		
14	リハビリテーション診療	・リハビリテーション医学関連職種 ・チーム医療 ・リハビリテーション診療の手順 ・EBMとNBM		
15	リハビリテーション医療 急性期、回復期、生活期	・急性期⇒回復期⇒生活期とその流れ ・診療機能分化とその流れ ・地域包括ケアシステム		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
医学概論(医学書院) 配布プリント		期末試験	100%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法概論		理学療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中内 英樹
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法の歴史と発展の背景、現状を把握し、今後の発展性について学ぶ。</li> <li>・理学療法士としての使命と倫理を法的根拠を基に理解し、理学療法士に求められる資質を学ぶ。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法の概要、魅力、可能性について説明することができる。</li> <li>・理学療法士に求められる人間像をイメージする。</li> <li>・自分の目指す理学療法士像を説明できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った経験を盛り込みながら教授する。		
時間外に必要な学修				
授業で提示された用語をインターネット等で検索し理解を深める。				
回	テーマ	内容		
1	理学療法とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法の歴史</li> <li>・理学療法の定義</li> <li>・リハビリテーションと理学療法</li> </ul>		
2	理学療法士に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士及び作業療法士法</li> </ul>		
3	理学療法士の使命と倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士の役割と使命</li> <li>・守秘義務と個人情報保護</li> <li>・自己決定権の尊重</li> <li>・職業倫理ガイドライン</li> </ul>		
4	理学療法を構成する技術概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法の構成</li> <li>・運動療法と物理療法</li> <li>・補装具療法</li> <li>・理学療法と国際生活機能分類</li> </ul>		
5	医療保険制度からみた理学療法の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関と診療科目</li> <li>・診療報酬における理学療法</li> </ul>		
6	医療保険制度における理学療法と施設基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患別リハビリテーション施設基準</li> </ul>		
7	社会福祉・介護保険制度からみた理学療法の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害者福祉法における理学療法</li> <li>・介護保険制度における理学療法</li> </ul>		
8	社会保障制度以外での活躍の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政分野</li> <li>・JICA</li> <li>・スポーツ分野</li> <li>・メーカー</li> <li>・健康増進分野</li> </ul>		
9	理学療法の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法処方</li> <li>・評価</li> <li>・目標設定</li> <li>・治療計画</li> <li>・記録報告</li> <li>・クリニカルパス</li> </ul>		
10	理学療法業務の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク管理の必要性</li> <li>・病院機能評価</li> <li>・患者満足度</li> <li>・理学療法診療ガイドライン</li> </ul>		
11	理学療法業務の質の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事故の防止</li> <li>・インシデントとアクシデント</li> <li>・医療訴訟</li> <li>・感染予防</li> </ul>		
12	理学療法教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学教育の現状</li> <li>・理学療法教育の現状</li> <li>・卒前教育の到達目標</li> <li>・卒後教育システム</li> </ul>		
13	世界の理学療法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各国での理学療法</li> <li>・世界理学療法連盟</li> <li>・アジア理学療法連盟</li> <li>・(公社)日本理学療法士協会</li> </ul>		
14	これからの理学療法と可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会情勢と理学療法</li> <li>・医療の進歩と理学療法</li> <li>・医療経済学から見た理学療法</li> </ul>		
15	理学療法士に求められる資質とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床推論</li> <li>・対人関係技術</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布プリント		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保健医療福祉論		理学療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	横倉 益弘
授業の概要				
・日本の社会保障制度、特にリハビリテーションに関係の深い保険(保健)制度、医療制度、福祉制度における概要と各々の問題点を諸外国と対比しながら理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
・日本の社会保障制度の背景を理解する。 ・リハビリテーションと各制度の関連性を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 国民健康保険病院勤務時、行政職、保健師、ヘルパーと共に連携し地域医療に従事した経験をもとに授業を進める。		
時間外に必要な学修				
事前に配布している授業資料を見て予習を行う。リフレクションシートを使って授業の復習をする。				
回	テーマ	内 容		
1	社会保障制度の概念を理解する(1)	・社会保障制度について ・日本国憲法25条について		
2	社会保障制度の概念を理解する(2)	・社会生活における安全網とは ・社会保障制度概要 ・ライフサイクルの変化		
3	社会保障制度と構造改革	・社会保障制度概要 ・高齢化の特徴 ・社会保障の構造改革 ・少子化対策		
4	医療体系(1)	・一次医療について ・二次医療について ・三次医療について		
5	医療体系(2)	・医療圏について ・特殊医療について (救急医療、難病対策、終末期医療)		
6	老人の医療と福祉	・老人保健法と老人福祉法について ・ゴールドプラン ・介護保険制度		
7	介護保険制度概要	・介護保険制度概要 ・地域包括ケアシステムについて		
8	医療法とその改正(1)	・医療法について ・わが国の医療制度の特徴について		
9	医療法とその改正(2)	・医療法とその改正について ・日本の医療制度について		
10	社会保障費と医療費	・社会保障費と医療費について		
11	社会保障費と医療財政 医療保険制度	・社会保障費と医療財政について ・医療保険制度について		
12	診療報酬支払い制度 医療提供体制	・診療報酬支払い制度について ・医療提供体制について		
13	介護保険制度(1)	・介護保険制度について		
14	介護保険制度(2)	・介護保険制度について		
15	社会保障制度まとめ	・まとめと定期試験について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・保健医療福祉制度論(ミネルヴァ書房) ・公衆衛生がみえる(メディックメディア)		期末試験	100%	社会情勢、特に政治、経済、保健、医療に関わる情報収集に努める。

# 基礎理学療法學

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎理学療法 I		理学療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	横川 光代
授業の概要				
・骨、関節、軟骨組織の構造を学び、それらの治癒過程とバイオメカニクスの総論を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨の組織構造、骨折の分類、骨の治癒過程を説明することができる。</li> <li>・関節軟骨の組織構造、軟骨の損傷と修復過程を説明することができる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 骨・関節・軟骨の構造、治癒過程と臨床症状を関連づけて指導する。		
時間外に必要な学修				
テキストを用いて次回の授業内容を予習する。				
回	テーマ	内容		
1	1. 長管骨の機能と基本構造、骨の組成(細胞的要素)について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨の機能(支持・保護・運動・貯蔵・造血)</li> <li>・長管骨の基本構造と組成(細胞性要素と細胞間質)</li> </ul>		
2	1. 細胞間質要素について学ぶ 2. 骨の形成・改変過程について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞間質の構成要素, コラーゲン線維の合成過程</li> <li>・緻密骨、海綿骨の形成と骨改変過程</li> </ul>		
3	1. 骨の成長とモデリング 2. 骨代謝(全身・局所的要請)について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨の成長と力学的要求に伴うモデリングとリモデリング</li> <li>・骨代謝における骨の吸収と形成連関</li> </ul>		
4	1. 骨によるカルシウムとリンの貯蔵と放出 2. 骨の血行について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カルシウムの摂取と排泄</li> <li>・ビタミンとホルモンによるカルシウムの全身的調整</li> </ul>		
5	1. 骨折の分類とその特徴 2. 骨折に伴う合併症	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部位・程度・骨折線の走行・転位による骨折分類</li> <li>・骨折に伴って起こる合併症(神経損傷、感染等)</li> </ul>		
6	1. 長管骨骨折の一次性骨癒合の過程と条件 2. 二次性骨癒合の過程とその条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次性骨癒合の治癒過程とHaversian modelingについて</li> <li>・二次性骨癒合の治癒過程と仮骨フォーメーション</li> </ul>		
7	1. 海綿骨の骨癒合について 2. 骨折治療における観血的治療の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海綿骨の骨癒合について</li> <li>・骨折治療における観血的治療の方法について</li> </ul>		
8	1. 骨移植の病態生理について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨移植の分類と移植材料について</li> <li>・骨移植の病態生理(生着の因子と過程、移植材料による生着の差)</li> </ul>		
9	1. 軟骨の構造および組成 2. 関節軟骨の荷重緩衝、潤滑機構について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関節軟骨の組成(細胞と基質)と機能</li> <li>・荷重緩衝と潤滑機構</li> </ul>		
10	1. メカニカルストレスや軟骨マトリックスによる軟骨破壊のメカニズムについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軟骨の破壊のメカニズムの種類</li> <li>・メカニカルストレスによる磨耗</li> </ul>		
11	1. 軟骨の代謝と加齢による変化 2. 軟骨損傷と自己修復機序	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軟骨の代謝回転と増殖因子</li> <li>・外傷や不動による軟骨損傷の程度と修復機序</li> </ul>		
12	1. 関節包の構造と機能 2. 関節不動・外傷による関節包の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関節包の線維膜、滑膜の構造と働き</li> <li>・関節不動による関節包の変化と手術後や外傷後の関節包の変化</li> </ul>		
13	1. 滑液の組成と正常生理 2. 関節不動・外傷による滑液の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滑液の組成と疾患による変化</li> <li>・滑液の産生・運搬・吸収機構</li> </ul>		
14	1. 関節軟骨の破壊と滑膜炎について 2. 関節炎と関節水腫の関係、各疾患の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関節炎の分類</li> <li>・関節炎による滑膜血液関門の破綻と関節水腫</li> </ul>		
15	1. 滑液包の構造と滑液包炎について 2. 膝関節水腫に対する理学療法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滑液包の構造と分類、病理組織所見</li> <li>・膝関節水腫に対する理学療法評価と治療</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能障害科学入門(九州神陵文庫)</li> <li>・配布資料</li> </ul>		期末試験 小テスト	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎理学療法学Ⅱ		理学療学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	田中 裕介
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経の構造と機能を学ぶ。</li> <li>・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経の損傷と治癒過程を学ぶ。</li> <li>・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経が損傷されるメカニズム(バイオメカニクス)を学ぶ。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経の構造と機能を説明することができる。</li> <li>・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経の損傷と治癒過程を説明することができる。</li> <li>・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経が損傷されるメカニズム(バイオメカニクス)を説明することができる。</li> </ul>				
実務経験の有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期病院での経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修				
1年次に履修した解剖学(骨関節系)と運動学を復習する。				
回	テーマ	内容		
1	靭帯損傷の治癒過程 膝十字靭帯のバイオメカニクス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・靭帯の機能解剖</li> <li>・靭帯損傷後の治癒過程</li> <li>・十字靭帯の物性、弛緩性、不安定性</li> <li>・再建材料の強度</li> </ul>		
2	ACL再建術の基礎となるバイオメカニクス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前方制動性・線維束間の機能分担</li> <li>・屈曲伸展に伴う張力変化・移植腱固定に必要な初期張力</li> </ul>		
3	膝十字靭帯再建術におけるバイオメカニクスの応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十字靭帯の長さ変化・十字靭帯のisometry</li> <li>・力学的環境が十字靭帯に与える影響</li> </ul>		
4	膝屈筋腱を用いた膝前十字靭帯再建術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各手術手技と理学療法のポイント</li> </ul>		
5	膝屈筋腱を用いた膝前十字靭帯再建術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各手術手技と理学療法のポイント</li> </ul>		
6	腱損傷の治癒過程 アキレス腱損傷について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腱の機能解剖</li> <li>・腱損傷後の治癒過程</li> <li>・アキレス腱損傷後の修復過程</li> </ul>		
7	アキレス腱損傷の保存療法 " の術後療法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術手技と理学療法のポイント</li> </ul>		
8	筋の構造と筋損傷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋の機能解剖</li> <li>・筋損傷と遅発性筋痛症</li> </ul>		
9	筋の代謝と治癒過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋の代謝</li> <li>・筋損傷の治癒過程</li> </ul>		
10	廃用性筋萎縮とサルコペニア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃用性筋萎縮と加齢性筋肉減少症の定義の違い</li> <li>・それぞれの発生機序と効果的なトレーニング</li> </ul>		
11	創傷について 創傷の治癒過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創傷の定義</li> <li>・皮膚の機能解剖</li> <li>・創傷とケロイド</li> <li>・創傷の治癒過程</li> <li>・植皮の生着の過程</li> </ul>		
12	熱傷について 熱傷の治癒過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱傷の分類</li> <li>・熱傷の治癒過程</li> <li>・熱傷に対する理学療法</li> </ul>		
13	末梢神経の機能解剖 末梢神経損傷の分類機能障害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・末梢神経の構造、機能、解剖、形態的分類</li> <li>・機能障害の特徴と組織の変化</li> </ul>		
14	末梢神経の治癒過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワラー変性と再生</li> <li>・神経損傷に対する治療</li> </ul>		
15	末梢神経損傷に対する理学療法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法評価</li> <li>・運動療法と物理療法</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・機能障害科学入門(九州神陵文庫)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎理学療法Ⅲ		理学療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮内 貴志子
授業の概要				
・呼吸器疾患、循環器疾患の病態を理解するために必要な生理学的基礎知識を習得する				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生理学的知識および用語を用いて、呼吸・循環生理を説明できる</li> <li>・臓器不全の病態と治療について説明できる</li> <li>・がん患者のリハビリテーションについて説明できる</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 症例を交えて病態をイメージできるように展開する。		
時間外に必要な学修				
内臓の機能を振り返り、解剖生理学の復習。				
回	テーマ	内容		
1	内部障害とは何か ・内部障害とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部障害とは</li> <li>・内部障害に対する理学療法士の役割</li> </ul>		
2	消化吸収絹障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消化吸収機能と機能障害</li> </ul>		
3	腎臓機能と障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腎臓機能障害について</li> <li>・腎臓疾患の病態と治療について</li> </ul>		
4	心臓機能と障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腎臓や呼吸機能障害とのつながり</li> </ul>		
5	心臓機能と障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器系とのつながりと障害</li> </ul>		
6	呼吸器機能について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸機能の解剖と障害(外呼吸)</li> </ul>		
7	換気の異常	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スパイグラムによる換気機能障害</li> </ul>		
8	換気の異常	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フローボリュームによる換気機能障害</li> </ul>		
9	呼吸不全とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸不全の病態と治療</li> </ul>		
10	血液ガスと酸塩基平衡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液ガスの正常と異常</li> <li>・アシドーシスとアルカローシス</li> </ul>		
11	がんとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんの病理 原発巣と転移 ステージ</li> </ul>		
12	がんの診断と治療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術療法 薬物療法 ホルモン療法 放射線療法</li> </ul>		
13	がんとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんの病理 原発巣と転移 ステージ</li> </ul>		
14	がんの摘出術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術療法と副作用</li> </ul>		
15	がん患者のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケア ターミナルケア</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気がみえるvol.2循環器</li> <li>・病気がみえるvol.4呼吸器</li> <li>・病気がみえるvol.8腎・泌尿器(メディックメディア)</li> <li>・イラストでわかる内部障害(医歯薬出版)</li> </ul>		期末試験 確認テスト	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎理学療法学Ⅳ		理学療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村上 匡司
授業の概要				
疼痛の発生機序と生体内での調節、コントロールについて学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
疼痛の発生機序と生体内での調節、コントロールを説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 症例を交えて病態をイメージできるように展開する。		
時間外に必要な学修				
生理学の復習。				
回	テーマ	内容		
1	痛みの概念について(1)	片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛などの特徴、頭痛のレッドフラッグサイン、見逃したくない疾患など		
2	痛みの概念について(2)	胸痛の特徴、5 Killer chest painsについて、胸痛のレッドフラッグサイン、見逃したくない疾患など		
3	痛みの概念について(3)	腹痛の原因、虫垂炎、機能的消化管障害、腸閉塞について、腹痛で見逃したくない疾患など		
4	痛みの概念について(4)	腰痛の分類、原因、各疾患の特徴、腰痛のレッドフラッグサイン、見逃したくない疾患など		
5	腰痛について	腰痛の発生源について、Modic type、それについての関連、反映する内容、非特異的腰痛(慢性腰痛)など		
6	痛みの経路(前半)	侵害受容器、脊髄後角、炎症メディエータについて、ポリモーダル受容器、末梢性感作、中枢性感作など		
7	痛みの経路(後半)	痛みを伝える線維、Rexed層、後角での電位発生、シナプス抑制、二次ニューロン、大脳辺縁系について		
8	下行性疼痛調整系	痛みの経路のまとめ、オピオイドの観点からの下行性疼痛調整系、脳内ドパミンシステムなどについて		
9	痛みの病態による分類 痛みについての文献抄読とまとめ	痛みの伝わり方、侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、非器質性疼痛(心因性疼痛)、共感について		
10	慢性痛について 痛みについての文献抄読とまとめ	慢性痛の定義、Biopsychosocial modelについて、痛みの悪循環、薬物療法、慢性痛へのアプローチなど		
11	炎症について 炎症についての文献抄読とまとめ	炎症の定義、分類、意義、原因など、急性炎症と慢性炎症の特徴、炎症反応について		
12	受容体について 炎症についての文献抄読とまとめ	TRPV1、PTPV4、TRPA1、TRPM8受容体などの特徴について、鎮痛補助薬、PRS(Pain Relief Score)など		
13	痛み、炎症についての文献抄読とまとめ	文献を各自が抄読し、まとめたものを冊子として全員に配布し語彙、共通認識を増やす		
14	文献抄読内容についての発表(1)	冊子を使用し、各自「痛み」もしくは「炎症」について選択し端的に発表することで語彙、文献からの情報を共有する		
15	文献抄読内容についての発表(2)	冊子を使用し、各自「痛み」もしくは「炎症」について選択し端的に発表することで語彙、文献からの情報を共有する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 各種書籍、文献等		期末試験 確認テスト	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動学		理学療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村上 匡司
授業の概要				
日常生活活動(ADL)の概念と範囲、意義を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>ADLの概念、範囲が説明できる ICIDH、ICFの分類が理解できる。</li> <li>姿勢や動き、動作の観察ができる。動作の記述ができる。</li> <li>ADL指導や環境整備、機器の選定の提案などができる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修				
日常生活の範囲や動作の要素について考察しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	ADLの概念、範囲について ADLとQOLについて	BADL、APDLとIADL、ADL評価の目的、評価尺度、できるADLとしているADL、ICIDHとICF、QOLの種類について		
2	ADLとICF(ICIDH) 問題点の抽出方法について	ICIDHとICFそれぞれの概念、視点について、それらを用いて問題点の整理(演習)など		
3	ベッドサイドからの評価について (1)	意識障害の評価からはじまりバイタル確認、問診、各評価について学び、可能なものは実際に行う。		
4	ベッドサイドからの評価について (2)	意識障害の評価からはじまりバイタル確認、問診、各評価について学び、可能なものは実際に行う。		
5	ベッドサイドからの評価について (3)	意識障害の評価からはじまりバイタル確認、問診、各評価について学び、可能なものは実際に行う。		
6	寝返り起き上がり動作について	起き上がり動作にて必要な要素や作用、筋など、起き上がり動作の介助方法について、動作の記述まで。		
7	立ち上がり動作について 移乗動作について	各動作に必要な要素や作用、筋など、それぞれの動作の介助方法について、動作の記述まで。		
8	歩行動作について	歩行の型、歩行周期、実用性について、歩行動作(DVD)について記述を行う。		
9	動作を考える 計算問題	運動学的視点、テコの種類について、動作分析の目的など力学的視点から国家試験問題の解説		
10	福祉用具と住環境整備について	福祉用具、スロープの概要、介護保険における貸与と購入、それぞれの手順、住環境整備の流れなどについて。		
11	訪問指導での視点 訪問時のアセスメントについて	訪問指導での注意点、訪問におけるアセスメントについて。		
12	各疾患のADL(1)	病態の整理、症例検討、デモンストレーション、国家試験問題の解説など		
13	各疾患のADL(2)	病態の整理、症例検討、デモンストレーション、国家試験問題の解説など		
14	FIMIについて(1)	FIMIの原則、概要、評価方法と定義、各項目の採点方法について		
15	FIMIについて(2)	各項目の採点方法、国家試験問題の解説など		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・日常生活活動学テキスト(南江堂)		期末試験	100%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法研究論		理学療法学科/2年	2021/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	横倉 益弘
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士として研究の必要性を理解する</li> <li>・研究の方法を理解する</li> <li>・基本的な統計処理を理解する</li> <li>・Power Pointを使ったプレゼンテーションを経験する</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士として研究の必要性を理解し、指導者の助言・指導を受けながら、基本的な研究発表を行うことができる</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士として5年以上の実務経験</li> <li>・病院での実務経験を生かして学生に分かりやすく説明する。</li> </ul>		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の情報科学、統計学を復習しておくこと。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	研究とは 理学療法と研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の意義・目的、心構え</li> <li>・理学療法と研究、理学療法の研究の現状</li> </ul>		
2	研究の進め方①(外部講師)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究の意義と役割</li> <li>・統計手法①</li> </ul>		
3	研究の進め方②(外部講師)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計手法②</li> </ul>		
4	研究の進め方③(外部講師)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整形外科疾患の研究の実際</li> </ul>		
5	研究の進め方④(外部講師)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部障害(呼吸)の研究の実際</li> </ul>		
6	文献検索 テーマ作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献・テーマの検索</li> <li>・テーマ作成用紙の作成</li> </ul>		
7	研究計画書作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究計画書の作成</li> <li>・情報収集</li> </ul>		
8	研究実施 レポート作成(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究計画書に則った研究の実施</li> <li>・レポートの作成、研究進行報告書の作成</li> </ul>		
9	研究実施 レポート作成(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究計画書に則った研究の実施</li> <li>・レポートの作成、研究進行報告書の作成</li> </ul>		
10	研究実施 レポート作成(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究計画書に則った研究の実施</li> <li>・レポートの作成、研究進行報告書の作成</li> </ul>		
11	発表原稿 発表抄録作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートを元に、発表用スライド(パワーポイント)</li> <li>・発表用抄録の作成</li> </ul>		
12	発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究発表(1)</li> </ul>		
13	発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究発表(2)</li> </ul>		
14	発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究発表(3)</li> </ul>		
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新理学療法講座 理学療法研究法(医歯薬出版)</li> <li>・配布資料</li> </ul>		課題・レポート	100%	

# 理学療法評価学

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法評価学 I		理学療法学科/1年	2021/後期	講義・実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中嶋 志保
授業の概要				
理学療法評価の意義、目的と理学療法領域で必要な基本的身体機能検査法について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療情報収集の方法を理解する。</li> <li>・バイタルサインの確認、形態測定、関節可動域測定、反射検査が的確な手順に沿って実施できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実践を通して身につく授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
学習した検査法については、空き時間を利用して自主的に練習する。				
回	テーマ	内 容		
1	総論	理学療法における評価		
2	バイタルサイン	バイタルサインとは		
3	バイタルサインの実際①	意識状態		
4	バイタルサインの実際②	循環器系の指標と検査		
5	バイタルサインの実際③	呼吸器系の指標と検査		
6	バイタルサインの実際④	グループ学習		
7	形態測定	形態測定の意義		
8	形態測定の実際①	栄養状態と体格指数		
9	形態測定の実際②	四肢長、周径		
10	形態測定の実際③	グループ学習		
11	関節可動域	身体の基本肢位と運動方向		
12	関節可動域測定の実際①	肩甲帯・上肢		
13	関節可動域測定の実際②	肩甲帯・上肢		
14	関節可動域測定の実際③	グループ学習		
15	関節可動域測定の実際④	下肢・体幹		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法評価学 I		理学療法学科/1年	2021/後期	講義・実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中嶋 志保
回	テーマ	内 容		
16	関節可動域測定の実際⑤	下肢・体幹		
17	関節可動域測定の実際⑥	グループ学習		
18	知覚検査	知覚の分類		
19	知覚検査の実際①	表在感覚		
20	知覚検査の実際②	深部感覚、複合感覚		
21	知覚検査の実際③	グループ学習		
22	反射	反射の生理学的理解		
23	反射の実際①	深部腱反射		
24	反射の実際②	表在反射		
25	反射の実際③	病的反射		
26	反射の実際④	グループ学習		
27	見学実習にむけて①	医療面接と情報収集		
28	見学実習にむけて②	問診とその記録		
29	見学実習にむけて③	問診とその記録		
30	見学実習にむけて④	ロールプレイ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
理学療法評価学(金原出版)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法評価学Ⅱ		理学療法学科/2年	2021/前期	講義・実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	横川 光代
授業の概要				
理学療法評価の意義、目的と理学療法領域で必要な各種検査測定について学ぶ				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種検査測定の目的が説明できる。</li> <li>・徒手筋力検査法を正しい方法に従って実施でき、結果を判断することができる。</li> <li>・バランス検査、筋トーン検査を正しく実施でき、判断基準を説明することができる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実践を通して身につく授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
・検査技術の習熟度を上げる為、時間外にも自主的に実技練習に取り組む。				
回	テーマ	内容		
1	筋力検査とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋力検査の目的、分類、各検査法</li> <li>・徒手筋力検査法の段階づけシステムについて</li> </ul>		
2	徒手筋力検査法①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・肩甲骨：外転と上方回旋、挙上、内転</li> </ul>		
3	徒手筋力検査法②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・肩甲骨：下制と内転、内転と下方回旋、下制</li> </ul>		
4	徒手筋力検査法③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・肩関節：屈曲、伸展、外転</li> </ul>		
5	徒手筋力検査法④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・肩関節：水平外転、水平内転、外旋、内旋</li> </ul>		
6	徒手筋力検査法⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・股関節：屈曲、屈曲・外転、伸展</li> <li>・小テスト①</li> </ul>		
7	徒手筋力検査法⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・股関節：外転、屈曲位からの外転、内転</li> </ul>		
8	徒手筋力検査法⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・股関節：外旋、内旋 膝関節：屈曲</li> </ul>		
9	徒手筋力検査法⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・肘関節：屈曲 前腕：回外、回内</li> </ul>		
10	徒手筋力検査法⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・手関節：屈曲、伸展、 手指：MP関節屈曲、伸展</li> </ul>		
11	徒手筋力検査法⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・手指：PIP・DIP関節屈曲 指外転、指内転</li> <li>・小テスト②</li> </ul>		
12	徒手筋力検査法⑪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・前半の徒手筋力検査法の復習</li> </ul>		
13	徒手筋力検査法⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・母指：MP・IP関節屈曲、伸展、外転、内転、対立</li> </ul>		
14	徒手筋力検査法⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・膝関節：伸展 足関節：底屈、背屈ならびに内がえし</li> </ul>		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法評価学Ⅱ		理学療法学科/2年	2021/前期	講義・実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	横川 光代
回	テーマ	内容		
15	徒手筋力検査法⑭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・足：内がえし、底屈を伴う外がえし、母趾と足ゆびのMP関節屈曲</li> </ul>		
16	徒手筋力検査法⑮ 小テスト③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・母趾と足ゆびのDIP・PIP関節屈曲、MP・IP関節伸展</li> <li>・小テスト③</li> </ul>		
17	徒手筋力検査法⑯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・頸部筋のテスト①</li> </ul>		
18	徒手筋力検査法⑰	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・頸部筋のテスト②</li> </ul>		
19	徒手筋力検査法⑱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・体幹部のテスト①</li> </ul>		
20	徒手筋力検査法⑲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・体幹部のテスト②</li> </ul>		
21	徒手筋力検査法⑳ 小テスト④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・脳神経支配筋のテスト</li> <li>・小テスト④</li> </ul>		
22	徒手筋力検査法㉑	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・脳神経支配筋のテスト</li> </ul>		
23	徒手筋力検査法㉒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査実技</li> <li>・後半の徒手筋力検査法の復習</li> </ul>		
24	整形外科疾患検査①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的整形外科疾患検査</li> <li>・模擬患者を用いて事例検討</li> </ul>		
25	整形外科疾患検査②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的整形外科疾患検査</li> <li>・模擬患者を用いて事例検討</li> </ul>		
26	・バランステスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バランスとは(静的バランスと動的バランス)</li> <li>・各バランステスト(Romberg試験、Mann試験等)</li> <li>・小テスト⑤</li> </ul>		
27	・筋トーン検査①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋トーン(緊張)とは</li> <li>・筋トーン検査の診断(Ashworthの痙性スケール)</li> </ul>		
28	・筋トーン検査②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋トーン検査の実際(被動性検査と懸振性検査)</li> <li>・筋強剛の検査</li> </ul>		
29	・事例検討①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中枢神経疾患に対する徒手筋力検査法</li> <li>・筋緊張検査</li> </ul>		
30	・事例検討② ・まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整形外科疾患に対する徒手筋力検査法</li> <li>・整形外科疾患検査</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法評価学(金原出版)</li> <li>・徒手筋力検査法(共同医書)</li> </ul>		小テスト 実技試験	50% 50%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法評価学Ⅲ		理学療法学科/2年	2021/後期	講義・実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村上 匡司
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神経系の疾患に対する評価の概要を理解する。</li> <li>・ 各疾患に対する評価項目の抽出、選択を行い手技を確認する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
各疾患についての基本的な評価を行うことができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った評価技術と経験を伝える。		
時間外に必要な学修				
評価手技の練習。				
回	テーマ	内容		
1	正常発達について	正常発達		
2	姿勢反射検査について	姿勢反射のレベル、姿勢反射の概要について		
3	運動失調の分類、協調性検査について	脊髄性失調、迷路性失調、小脳性失調、大脳性失調について		
4	共同運動と連合反応 片麻痺機能検査について(1)	片麻痺運動障害の特徴、Brunnstrom test、SIASについて		
5	共同運動と連合反応 片麻痺機能検査について(2)	片麻痺運動障害の特徴、Brunnstrom test、SIASについて		
6	脳神経とその検査方法について	脳神経の働き、障害より現れる徴候、脳神経検査方法について		
7	高次脳機能障害について	失認、失行、失語などについて		
8	高次脳機能障害の検査法について	各障害とその検査法について		
9	(各疾患についての評価) 脳血管障害による片麻痺	評価項目の抽出、選択、優先順位や安全性の配慮、実践方法について(グループ学習、発表)		
10	(各疾患についての評価) パーキンソン病	評価項目の抽出、選択、優先順位や安全性の配慮、実践方法について(グループ学習、発表)		
11	(各疾患についての評価) 脊髄小脳変性症	評価項目の抽出、選択、優先順位や安全性の配慮、実践方法について(グループ学習、発表)		
12	(各疾患についての評価) 変形性関節症	評価項目の抽出、選択、優先順位や安全性の配慮、実践方法について(グループ学習、発表)		
13	(各疾患についての評価) 大腿骨頸部骨折	評価項目の抽出、選択、優先順位や安全性の配慮、実践方法について(グループ学習、発表)		
14	(各疾患についての評価) 虚血性心疾患	評価項目の抽出、選択、優先順位や安全性の配慮、実践方法について(グループ学習、発表)		
15	(各疾患についての評価) 慢性閉塞性肺疾患	評価項目の抽出、選択、優先順位や安全性の配慮、実践方法について(グループ学習、発表)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 理学療法評価学(金原出版)		実習・実技評価	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動作分析セミナー		理学療法学科/2年	2021/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	田中 裕介
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・動作分析の概要及び方法論を教授する。</li> <li>・起立動作や歩行を分析するための理論と方法を教授する。</li> <li>・事例を通して臨床的思考と問題解決を学ぶ。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・起立動作・歩行動作を運動学的・運動力学的・筋電学的に説明できる。</li> <li>・動作障害の原因の仮説立案ができる。</li> <li>・得られた情報を利用して統合と解釈ができる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 自身の臨床例を用いて分析のポイントを指導する。		
時間外に必要な学修				
授業テキストを用いて、分析に必要な内容を予習する。				
回	テーマ	内容		
1	動作分析とは 概要	動作分析を何故行うのか、何故重要なのかを理解する		
2	運動学的分析	動作を運動学的思考を用いて評価・分析する		
3	運動力学的分析	動作を運動力学的思考を用いて評価・分析する		
4	筋電図学的分析	動作を筋電図学的思考を用いて評価・分析する		
5	起立動作の基礎	座位から起立までの一連の動きを運動学・力学・筋電図を用いて理解する		
6	起立動作分析のポイント	機能障害別の起立動作を理解する		
7	歩行の基礎	正常歩行を運動学・力学・筋電図を用いて理解する		
8	歩行分析のポイント	歩行分析を行う際の着目点を理解する		
9	異常歩行	各異常歩行とその構造を解剖学的・運動学的視点で理解する		
10	階段昇降の基礎	階段昇降を運動学・力学・筋電図を用いて理解する		
11	階段昇降動作分析	機能障害別の階段昇降の特徴を理解する		
12	事例検討①	提示した症例の歩行を観察し、記録を作成する		
13	事例検討②	異常歩行の原因を分析する為に必要な評価項目を収集する		
14	事例検討③	観察した結果と情報を統合し、予後予測を行い必要な訓練や歩行補助具を選定する		
15	発表・まとめ	グループ毎に発表し、より良い方法を選択する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・動作分析臨床活用講座 (メジカルビュー)		期末試験	100%	



# 理学療法治療学

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動療法学		理学療法学科/2年	2021/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	田中 裕介・平岡 英樹
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な障害の規定要素と仕組みを教授する。</li> <li>・主要な障害に対する評価の理論と方法を教授する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動療法の概要を説明できる。</li> <li>・運動療法を実施する際に必要なリスク管理について説明できる。</li> <li>・主要な障害の規定要素と仕組みを説明できる。</li> <li>・主要な障害に対する評価を実施できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期・神経難病病院での経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修				
神経・筋・呼吸・循環の生理学と運動生理学を復習する。				
回	テーマ	内容		
1	総論 1	運動療法の概要		
2	総論 2	運動療法のリスク管理		
3	関節可動障害 1	関節可動障害の規定要素と障害の仕組み		
4	関節可動障害 2	関節可動障害の評価		
5	筋力低下 1	筋力低下の規定要素と障害の仕組み		
6	筋力低下 2	筋力低下の評価		
7	筋持久力 1	筋持久力低下の規定要素と障害の仕組み		
8	筋持久力 2	筋持久力低下の評価		
9	全身持久力 1	全身持久力低下の規定要素と障害の仕組み		
10	全身持久力 2	全身持久力低下の評価		
11	協調性 1	協調性の規定要素と障害の仕組み		
12	協調性 2	協調性障害の評価		
13	姿勢調節 1	姿勢調節の規定要素と障害の仕組み		
14	姿勢調節 2	姿勢調節の評価		
15	関節可動障害に対する運動療法 1	関節可動障害を改善させる理論		
16	関節可動障害に対する運動療法 2	運動療法の実際		
17	筋力低下に対する運動療法 1	筋力低下を改善させる理論		
18	筋力低下に対する運動療法 2	運動療法の実際		
19	筋持久力低下に対する運動療法 1	筋持久力低下を改善させる理論		
20	筋持久力低下に対する運動療法 2	運動療法の実際		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動療法学		理学療法学科/2年	2021/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	田中 裕介・平岡 英樹
回	テーマ	内容		
21	全身持久力低下に対する運動療法1	全身持久力低下を改善させる理論		
22	全身持久力低下に対する運動療法2	運動療法の実際		
23	協調運動障害に対する運動療法1	協調運動障害を改善させる理論		
24	協調運動障害に対する運動療法2	運動療法の実際		
25	姿勢調節障害に対する運動療法1	姿勢調節障害を改善させる理論		
26	姿勢調節障害に対する運動療法2	運動療法の実際		
27	感覚障害に対する運動療法1	感覚障害の分類と理論背景		
28	感覚障害に対する運動療法2	運動療法の実際		
29	バランス障害に対する運動療法1	バランス障害の分類と理論背景		
30	バランス障害に対する運動療法2	運動療法の実際		
31	歩行障害に対する運動療法1	歩行障害の分類と理論背景		
32	歩行障害に対する運動療法2	運動療法の実際		
33	高次脳機能障害に対する運動療法1	高次脳機能障害の分類と理論背景		
34	高次脳機能障害に対する運動療法2	運動療法の実際		
35	痛みに対する運動療法1	痛みの分類と理論背景		
36	痛みに対する運動療法2	運動療法の実際		
37	呼吸障害に対する運動療法1	呼吸障害の分類と理論背景		
38	呼吸障害に対する運動療法2	運動療法の実際		
39	循環障害に対する運動療法1	循環障害の分類と理論背景		
40	循環障害に対する運動療法2	運動療法の実際		
41	代謝障害に対する運動療法1	代謝障害の分類と理論背景		
42	代謝障害に対する運動療法2	運動療法の実際		
43	嚥下障害に対する運動療法1	嚥下障害の分類と理論背景		
44	嚥下障害に対する運動療法2	運動療法の実際		
45	まとめ	実技まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
運動療法学 障害別アプローチの理論と実際(文光堂)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理療法学		理学療法学科/2年	2021/後期	実験・講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村上 匡司
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>物理療法の分類、各機器の特性などを学ぶ。</li> <li>各種物理的刺激の身体に対する反応を学ぶ。</li> <li>実際に機器を使用することで、予測された効果や反応などを確認する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>物理的エネルギーの生体に対する影響、ならびにその生理学的根拠を理解する。</li> <li>目的に応じた各種物理療法の選択を会得、適応、禁忌を把握できるようになる。</li> <li>物理療法の一般的効果が説明でき、物理療法機器が安全に使用できるようになる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修				
各機器についての使用方法の確認。				
回	テーマ	内容		
1	温熱療法について	ホットパック、パラフィン、極超短波、超短波について、温熱の生理的作用、各機器の深達度など		
2	光線療法について	紫外線と赤外線、レーザー光線について、波長と周波数、逆自乗の法則、ランバートの余弦則など		
3	超音波療法について	ERA、BNR、連続波と断続(パルス)波、温熱効果と非温熱効果、吸収係数、半減深度など		
4	寒冷療法について 水治療法について	寒冷刺激の伝導要因、生理的作用、水の作用、浮力の影響、水中での身体への影響など		
5	電気刺激療法について	TENS、IFC、NMES、HVPC、MES、FES、電気的特性、モーターポイントについて、確認実験の準備		
6	牽引療法について 神経伝導速度、強さ時間曲線につい	牽引の種類、間欠牽引の生理学的効果、牽引方向、股関節屈曲角度について、各測定方法について		
7	9班に分かれて以下の各実験を行う  ① ホットパックもしくは赤外線 ② コールドパック ③ 超音波 ④ 超短波もしくは極超短波 ⑤ TENS ⑥ 干渉波 ⑦ 頸椎牽引もしくは腰椎牽引 ⑧ S-D曲線もしくはMCV測定 ⑨ 渦流浴、気泡浴	各班による実験、計測		
8		各班による実験、計測		
9		各班による実験、計測		
10		各班による実験、計測		
11		各班による実験、計測		
12		各班による実験、計測		
13		各班による実験、計測		
14		各班による実験、計測		
15		各班による実験、計測		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・テキスト物理療法学 基礎と臨床 (医歯薬出版)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
義肢装具学 I		理学療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	坂口 千恵美
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・切断の原因疾患やその切断術、切断の高位分類とそれに対応する義肢について学ぶ。</li> <li>・各義足のパーツの機能とバイオメカニクス、アライメント調整方法について学ぶ。</li> <li>・切断者に対するリハビリテーションについて学ぶ。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・切断の原因疾患やその切断術、切断の高位分類とそれに対応する義肢について説明できる</li> <li>・各義足のパーツの機能とバイオメカニクス、アライメント調整方法についてこたえることができる</li> <li>・切断者に対するリハビリテーションについて説明できる</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 自身の臨床例を用いて国家試験合格レベルの知識を指導する		
時間外に必要な学修				
小テストや確認テストの対策として、また、知識の定着を目的として授業の復習をする。参考書の熟読と授業資料の整理など。				
回	テーマ	内容		
1	義肢総論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVDによる概要の理解</li> <li>・義肢の構成要素</li> <li>・義肢の目的義肢の種類</li> </ul>		
2	切断の原因と治療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切断者数と切断原因</li> <li>・外傷、末梢循環障害、悪性腫瘍、先天性奇形</li> </ul>		
3	切断部位と切断術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切断と離断</li> <li>・切断術における各種の処置</li> </ul>		
4	切断者の理学療法評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般情報</li> <li>・問診</li> <li>・全身状態</li> <li>・身体面</li> <li>・APMスコア</li> <li>・心理面</li> </ul>		
5	断端管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・断端管理の目的</li> <li>・切断から義肢装着までの流れ</li> <li>・断端管理法の特徴と利点、欠点</li> </ul>		
6	足部について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義足の基本的構成要素</li> <li>・足部の構造</li> </ul>		
7	膝継手①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・膝継手の変遷</li> <li>・膝継手に求められる機能</li> <li>・遊脚相制御</li> </ul>		
8	膝継手②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立脚相制御</li> <li>・膝継手部品の選択</li> </ul>		
9	股継手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・股継手の種類</li> <li>・股継手の設定位置</li> <li>・屈曲補助バンパーの機能</li> </ul>		
10	下腿義足のソケット サイム義足のソケット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソケットの種類</li> <li>・体重支持方法、懸垂方法</li> </ul>		
11	大腿義足のソケット 膝義足のソケット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソケットの種類</li> <li>・大腿義足の変遷</li> </ul>		
12	下腿義足のアライメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベンチアライメント</li> <li>・スタティックアライメント</li> <li>・ダイナミックアライメント</li> </ul>		
13	大腿義足のアライメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベンチアライメント</li> <li>・スタティックアライメント</li> <li>・ダイナミックアライメント</li> <li>・義足の前方安定性・義足の側方安定性</li> </ul>		
14	その他の義足について 義手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・股義足のアライメント</li> <li>・膝義足のアライメント</li> <li>・サイム義足</li> <li>・足部切断用義足</li> <li>・義手</li> </ul>		
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験過去問および練習問題を解く</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 (羊土社)		期末試験 小テスト	50% 50%	小テストは毎回行う。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
義肢装具学Ⅱ		理学療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	坂口 千恵美
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションにおける装具療法の目的と装具処方の流れを学ぶ。</li> <li>・下肢、体幹装具の種類と特徴および適応を学ぶ。</li> <li>・脳卒中、下肢骨折、体幹障害、小児疾患の下肢装具療法の処方の考え方とチェックアウトを学ぶ。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションにおける装具療法の目的と装具処方の流れを説明できる。</li> <li>・各種下肢装具の種類と特徴及び適応を説明できる。</li> <li>・脳卒中片麻痺患者に対し下肢装具が処方できる。</li> <li>・下肢骨折、体幹障害、代表的な小児疾患の下肢装具療法を説明できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 自身の臨床例を用いて国家試験合格レベルの知識を指導する		
時間外に必要な学修				
小テスト、確認テスト対策として、また知識の定着として、授業終了後に復習をする。 教科書の熟読、授業資料の整理をする。				
回	テーマ	内容		
1	装具学総論	・装具の定義 ・装具の英文表記	・装具の目的と代表例 ・装具の力学的な基礎	・装具の分類
2	下肢装具の構成部品とそのチェックアウト	・下肢装具について ・下肢装具のチェックアウト	・代表的な構成部品	
3	足継手の制御機構	・足関節の運動と足継手の動き ・足継手が膝関節へ与える効果 ・底屈制限と背屈制限		
4	疾患別の装具療法 ①脳卒中片麻痺の装具	・長下肢装具 ・プラスチック短下肢装具 ・ストラップと膝あて	・金属支柱付き短下肢装具 ・反張膝防止装具	
5	疾患別の装具療法 ②対麻痺の装具	・対麻痺残存機能と歩行用装具 ・歩行の効果と課題 ・装具を使用した立位 ・対麻痺の下肢装具		
6	疾患別の装具療法 ③整形外科的装具	・整形外科的装具の概略 ・バストバンド ・前十字靭帯損傷用の膝装具 他 ・クラビクルバンド ・免荷装具		
7	疾患別の装具療法 ④頸椎疾患・胸腰椎疾患の装具	・体幹装具の構成要素と適切な位置 ・頸椎装具 ・胸腰仙椎装具 ・仙腸装具		
8	疾患別の装具療法 ⑤末梢神経障害の装具	・手の末梢神経損傷について ・尺骨神経麻痺、橈骨神経麻痺、正中神経麻痺の装具		
9	疾患別の装具療法 ⑥脊柱側弯症の装具	・脊柱側弯症について ・特発性側弯症に対する装具療法 ・脊柱側弯症に対する装具の種類とその特徴		
10	疾患別の装具療法 ⑦小児疾患の装具	・小児疾患とその装具 ・先天性股関節脱臼、ペルテス病、筋ジストロフィー症、脳性麻痺、先天性内反足と装具		
11	疾患別の装具療法 ⑧関節リウマチの装具	・関節リウマチについて ・関節リウマチの装具(上肢装具・下肢装具)		
12	靴型装具	・靴の基本的構造とその補正 ・靴底の補正 ・靴の踵の補正 ・靴の中での補正		
13	義肢装具の給付制度	・義肢装具の給付について ・義肢装具の給付制度 ・義肢装具の申請方法 ・義肢装具の制度分類		
14	短下肢装具装着における歩行分析	・片麻痺患者の歩行でみられる特徴的な現象 ・片麻痺患者の歩行分析		
15	まとめ	・まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 (羊土社)		期末試験 小テスト	50% 50%	小テストは毎回行う。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科疾患の理学療法 I		理学療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	横川 光代
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な下肢整形外科疾患の理学療法評価並びに治療体系について学ぶ。</li> <li>・変性疾患を中心に一連の理学療法の流れについて学ぶ。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の代表的疾患(骨折、変性疾患)に対する評価の流れを理解する。</li> <li>・下肢の整形外科疾患に対する評価項目のピックアップとその目的を述べることができる。</li> <li>・リスクを考慮した体位変換、運動検査、生活活動検査ができる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 整形外科急性期での経験を活かし臨床的思考過程の習得を教授する。		
時間外に必要な学修				
授業資料、テキストを用いて次回の授業内容を予習する				
回	テーマ	内容		
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腿骨近位部骨折の概要</li> <li>・大腿骨頸部骨折の分類と治療</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腿骨近位部骨折の疫学・分類</li> <li>・Garden分類と治療法の選択</li> </ul>		
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腿骨頸部内側骨折の保存療法の考え方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腿骨頸部内側骨折の臨床的特徴と適応選択基準</li> <li>・保存療法のプログラム</li> </ul>		
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CCHSの手術方法と接合状況のチェックポイント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CCHS手術方法</li> <li>・CCHSの接合状況のX-pチェックポイント</li> </ul>		
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Hansson pin systemの手術方法と接合状況のチェックポイント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Hansson pin systemの手術方法</li> <li>・Hansson pin systemのX-pチェックポイント</li> </ul>		
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨接合術におけるX-pの異常所見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・cut out、back out、penetrationの意味</li> <li>・revascularizationとlate segmental collapseの関係</li> </ul>		
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工骨頭置換術(BHP)の特徴、機構、適応、問題点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BHPの工学的理念と時代変遷、バイオメカニクス</li> <li>・大腿骨頸部骨折に対するBHPの適応と問題点</li> </ul>		
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BHPの手術手技とX-pでの早期・晚期合併症の見方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BHPの手術手技(骨セメント使用)</li> <li>・X-pのチェックポイント</li> </ul>		
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腿骨近位部骨折の周術期管理について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腿骨頸部内側骨折に対する骨接合術(CCHS法、Hansson pin固定)の後療法プログラム</li> </ul>		
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腿骨転子部骨折の分類と治療について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Evans分類、AO分類、改訂中野分類</li> <li>・治療法の選択</li> </ul>		
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腿骨転子部骨折の治療方針について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分類と治療方針の関係</li> <li>・診断と治療(保存療法と手術療法)</li> </ul>		
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SFN法の特徴、代表的機種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SFNの代表的機種(<math>\gamma</math>-nail、PFN、PFNA、IMHS)</li> <li>・機種による治療方法の比較</li> </ul>		
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SFN法の術後合併症の発生機序</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・術後出血の発生機序</li> <li>・内反変形と回旋転位の発生機序</li> </ul>		
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腿骨頸部外側骨折の理学療法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期リハビリテーションプログラムと早期荷重</li> </ul>		
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工股関節のデザイン</li> <li>・人工股関節の初期固定性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工股関節の目的、デザインと機能</li> <li>・固着、Osteolysisについて</li> </ul>		
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工股関節置換術における術後脱臼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工股関節全置換術の進入法と術後脱臼の関係</li> <li>・術後脱臼の誘発要因(姿勢、ADL)</li> </ul>		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科疾患の理学療法 I		理学療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	横川 光代
回	テーマ	内容		
16	・セメントレス人工股関節のステム周辺に見られる継時的変化	・初期固定性の判断基準 ・ストレスシールディング、感染の経過観察方法		
17	・膝骨壊死症(ON)の形態学的変化と病態	・膝骨壊死症の臨床症状と病態 ・変性軟骨の治療法		
18	・高位脛骨骨切り術(closed wedge HT0)	・closed wedge HT0の適応と手術方法 ・術後管理方法とリハビリテーションプログラム		
19	・高位脛骨骨切り術(opening wedge HT0)	・opening wedge HT0の適応と手術方法 ・術後管理方法とリハビリテーションプログラム		
20	・人工膝関節単顆型置換術について	・UKAの歴史と変遷 ・UKAの適応と手術の選択方法、術式		
21	・人工膝関節単顆型置換術の理学療法について	・UKAの術後管理の方法、リハビリテーション ・UKAの術後合併症(脱転、部品下骨折)		
22	・人工膝関節全置換術について	・TKAの歴史と変遷 ・TKAの適応と手術の選択方法、術式		
23	・人工膝関節全置換術について	・TKAの機種による違い ・軟部組織バランスの調整と影響		
24	・人工膝関節全置換術について	・TKAの術後リハビリテーション		
25	・関節リウマチについて	・関節リウマチの概念・疫学		
26	・関節リウマチの病態について	・関節リウマチの症状(関節外症状含む) ・変形の特徴		
27	・関節リウマチの診断について	・画像診断 ・血液所見 ・Steinbrockerのstage分類、ACRのclass分類		
28	・関節リウマチの治療①	・薬物療法 ・保存療法		
29	・関節リウマチの治療②	・手術療法 ・装具療法		
30	・まとめ ・試験対策	・全体のまとめ・復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・病気がみえるvol.11 運動器・整形外科(メディックメディア) ・運動器疾患の治療とリハビリテーション手術・保存療法とリハプログラム(メジカルビュー)		課題 期末試験	30% 70%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科疾患の理学療法Ⅱ		理学療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	横川 光代・田中 裕介
授業の概要				
・主な脊椎・脊髄疾患、上肢疾患の理学療法評価並びに治療体系について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・脊椎・脊髄疾患、上肢疾患の病態を理解し、適切な評価ができる。 ・基本的な治療(保存・手術)に対し、リスクや合併症に留意した理学療法が実施できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 整形外科急性期での経験を活かし臨床的思考過程の習得を教授する。		
時間外に必要な学修				
授業資料、テキストを用いて次回の授業内容を予習する。				
回	テーマ	内容		
1	・頸椎症の臨床病理 ・頸髄症の病態・診断と治療	・頸髄症の成因と病態 ・臨床症候と病理的变化の理解、各種検査		
2	・各伝導路と病態の特徴	・各伝導路の理解 ・代表疾患における症状の特徴		
3	・各高位障害の特徴と症候1	・C3/4高位の特徴 ・頸椎病変による手の症候と歩行障害		
4	・各高位障害の特徴と症候2	・中下位頸椎の症候、C5/6高位障害の特徴 ・神経根症と脊髄症		
5	・各高位障害の特徴と症候3	・脊髄円錐部の解剖学的特徴 ・Th11~L1脊髄高位の神経症候		
6	・後縦靭帯骨化症 ・中心性損傷の症状と治療	・骨化症の成因 ・骨化症の自然経過と治療方針		
7	・脊椎、脊髄疾患に対する画像診断 ・頸椎、頸髄疾患に対する観血的	・各種疾患の画像診断と画像計測における基準値 ・前方、後方アプローチによる各手術方法と問題点		
8	・腰痛と下肢の痺れの診断と治療 (腰部脊柱管狭窄症を中心に)	・腰部脊柱管狭窄症(LCS)の国際分類 ・LCSの症状		
9	・腰部脊柱管狭窄症の自然経過から みた治療戦略	・腰部脊柱管狭窄症の自然経過 ・腰椎変性すべり症の発生機序と椎間関節面の関係		
10	・腰椎変性すべり症、変性側弯症の 発生機序と治療方針	・腰椎変性すべり症と変性側弯症の発生機序 ・Static factor と Dynamic factor		
11	・腰椎椎間板ヘルニアの診療ガイド ライン	・疫学、自然経過に関するエビデンス ・病態、診断、治療に関するエビデンス		
12	・腰椎椎間板ヘルニアの治療に ついて	・診断について ・手術方法について		
13	・腰部疾患術後の理学療法について	・術前理学療法・腰部手術所見を見るときのポイント ・術後理学療法・腰部手術後の日常生活動作訓練		
14	・症例検討①	・模擬患者の基本情報より評価項目を考える ・評価結果をアセスメントする		
15	・症例検討②	・評価結果から問題点を考え、ICFで記載する		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科疾患の理学療法Ⅱ		理学療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	横川 光代・田中 裕介
回	テーマ	内容		
16	・反復性肩関節脱臼	・解剖、原因 ・評価	・検査 ・リハビリテーション	・治療 ・禁忌事項
17	・腱板断裂	・解剖、原因 ・評価	・検査 ・リハビリテーション	・治療 ・禁忌事項
18	・肩関節周囲炎	・解剖、原因 ・評価	・検査 ・リハビリテーション	・治療 ・禁忌事項
19	・上腕骨近位端骨折	・解剖、原因 ・評価	・検査 ・リハビリテーション	・治療 ・禁忌事項
20	・鎖骨骨折	・解剖、原因 ・評価	・検査 ・リハビリテーション	・治療 ・禁忌事項
21	・胸郭出口症候群	・解剖、原因 ・評価	・検査 ・リハビリテーション	・治療 ・禁忌事項
22	・上腕骨顆部、顆上骨折	・解剖、原因 ・評価	・検査 ・リハビリテーション	・治療 ・禁忌事項
23	・肘関節内側側副靭帯損傷	・解剖、原因 ・評価	・検査 ・リハビリテーション	・治療 ・禁忌事項
24	・肘関節複合不安定症	・解剖、原因 ・評価	・検査 ・リハビリテーション	・治療 ・禁忌事項
25	・手指屈筋腱損傷	・解剖、原因 ・評価	・検査 ・リハビリテーション	・治療 ・禁忌事項
26	・橈骨遠位端骨折	・解剖、原因 ・評価	・検査 ・リハビリテーション	・治療 ・禁忌事項
27	・末梢神経損傷	・解剖、原因 ・評価	・検査 ・リハビリテーション	・治療 ・禁忌事項
28	・舟状骨骨折	・解剖、原因 ・評価	・検査 ・リハビリテーション	・治療 ・禁忌事項
29	・手根管症候群	・解剖、原因 ・評価	・検査 ・リハビリテーション	・治療 ・禁忌事項
30	・症例検討	・模擬患者情報より、評価・治療内容を列挙する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気がみえるvol.11 運動器・整形外科(メディックメディア)</li> <li>・運動器疾患の治療とリハビリテーション 手術・保存療法とリハプログラム(メジカルビュー)</li> </ul>		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科疾患の理学療法Ⅲ		理学療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	田中 裕介
授業の概要				
・主なスポーツによる障害の理学療法評価並びに治療体系について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・スポーツによる障害の病態を理解し、適切な評価ができる。 ・基本的な治療(保存・手術)に対し、リスクや合併症に留意した理学療法が実施できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 整形外科急性期での経験を活かし臨床的思考過程の習得を教授する。		
時間外に必要な学修				
授業資料、テキストを用いて次回の授業内容を予習する。				
回	テーマ	内容		
1	膝・股関節のスポーツ障害1	・鼠径周辺部痛 ・梨状筋症候群		
2	膝・股関節のスポーツ障害2	・前十字靭帯損傷、後十字靭帯損傷 ・内外側側副靭帯損傷		
3	膝・股関節のスポーツ障害3	・半月板損傷 ・膝蓋腱炎		
4	膝・股関節のスポーツ障害4	・オスグッドシュラッター病 ・腸脛靭帯炎 ・鷲足炎		
5	膝・股関節のスポーツ障害5	・膝蓋下脂肪体炎 ・膝蓋軟骨軟化症		
6	下腿・足部のスポーツ障害1	・シンスプリント ・コンパートメント症候群 ・アキレス腱炎 ・アキレス腱断裂		
7	下腿・足部のスポーツ障害2	・足関節靭帯損傷 ・腓骨筋腱脱臼 ・腓骨筋炎 ・足根洞症候群		
8	下腿・足部のスポーツ障害3	・シーバー病 ・足関節インピンジメント症候群 ・第5中足骨骨折 ・後脛骨筋腱炎		
9	肩関節のスポーツ障害1	・肩峰下インピンジメント ・インターナルインピンジメント		
10	肩関節のスポーツ障害2	・上腕二頭筋長頭腱炎 ・肩鎖関節症		
11	肘・前腕のスポーツ障害1	・上腕骨内外側上顆炎 ・三角線維軟骨複合体損傷 ・ドゥケルバン病 ・円回内筋症候群		
12	肘・前腕のスポーツ障害2	・橈尺骨手根伸筋腱鞘炎 ・前腕コンパートメント症候群		
13	症例検討①	・模擬患者の基本情報より評価項目を考える ・評価結果をアセスメントする		
14	症例検討②	・評価結果から問題点を考え、ICFで記載する		
15	まとめ	実技等まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・外来整形外科のためのスポーツ外傷・ 障害の理学療法 (医歯薬出版株式会社)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
中枢神経疾患の理学療法 I		理学療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	平岡 英樹
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳血管障害および脊髄損傷に対する理学療法(リスク管理、評価、治療)を教授する。</li> <li>・脳血管障害および脊髄損傷に対する動作練習の理論および技術を教授する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳血管障害および脊髄損傷の病態および症状を説明できる。</li> <li>・脳血管疾患および脊髄損傷の治療およびリスク管理について説明できる。</li> <li>・脳血管疾患および脊髄損傷に対する基本的な理学療法評価と治療を実施できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期・神経難病病院での経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修				
解剖生理学 I とリハビリテーション神経学を復習すること。				
回	テーマ	内容		
1	脳血管障害の概要 1	発症機序、病型分類、疫学		
2	脳血管障害の概要 2	症状と脳の機能解剖		
3	脳血管障害の概要 3	合併症		
4	診断と治療 1	診断と治療の概要と流れ		
5	診断と治療 2	検査と診断		
6	診断と治療 3	治療		
7	リスク管理 1	急性期のリスク管理		
8	リスク管理 2	合併症のリスク管理		
9	リスク管理 3	回復期および維持期のリスク管理		
10	理学療法評価 1	急性期の評価		
11	理学療法評価 2	運動機能の評価		
12	理学療法評価 3	感覚機能の評価		
13	理学療法評価 4	高次脳機能の評価		
14	理学療法評価 5	姿勢制御と協調性の評価		
15	脳血管障害に対する理学療法の概要	脳卒中リハの流れ		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
中枢神経疾患の理学療法 I		理学療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	平岡 英樹
回	テーマ	内容		
16	急性期 1	ベッド上およびベッドサイド 1 (呼吸・ROM・筋力)		
17	急性期 2	ベッド上およびベッドサイド 3 (静的座位保持・動的座位保持)		
18	回復期 1	ベッド上およびベッドサイド 2 (寝返り・起き上がり)		
19	回復期 2	移乗		
20	回復期 3	起立・静的立位バランス練習・動的立位バランス練習		
21	回復期 4	歩行練習		
22	まとめ	まとめ		
23	脊髄損傷の概要 1	脊髄損傷の病態		
24	脊髄損傷の概要 2	脊髄損傷の合併症		
25	脊髄損傷の概要 3	脊髄損傷の急性期治療		
26	脊髄損傷に対する リハビリテーション 1	高位診断・横断診断・理学療法評価		
27	脊髄損傷に対する リハビリテーション 2	床上動作練習		
28	脊髄損傷に対する リハビリテーション 3	移乗・起立練習		
29	脊髄損傷に対する リハビリテーション 4	歩行練習、車椅子の適合、シーティング		
30	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳卒中理学療法の理論と技術 (メジカルビュー)</li> <li>・コツさえわかればあなたも読める リハに役立つ脳画像 (メジカルビュー)</li> <li>・脊髄損傷理学療法マニュアル(文光堂)</li> </ul>		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
中枢神経疾患の理学療法Ⅱ		理学療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	平岡 英樹
授業の概要				
主要な神経筋疾患(パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症など)について、疾患の概要及びリハビリテーションの方法を教授する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な神経筋疾患の病態および症状・経過・合併症を説明できる。</li> <li>・主要な神経筋疾患に対する基本的理学療法および運動療法を実施できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期・神経難病病院での経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修				
解剖生理学Ⅰとリハビリテーション神経学の復習をすること。				
回	テーマ	内容		
1	総論	神経筋疾患に対するリハビリテーションの概要		
2	パーキンソン病1	パーキンソン病の病態・症状・診断・治療		
3	パーキンソン病2	パーキンソン病に対するリハビリテーション1		
4	パーキンソン病3	パーキンソン病に対するリハビリテーション2		
5	脊髄小脳変性症1	脊髄小脳変性症の病態・症状・診断・治療		
6	脊髄小脳変性症2	脊髄小脳変性症に対するリハビリテーション1		
7	脊髄小脳変性症3	脊髄小脳変性症に対するリハビリテーション2		
8	多発性硬化症1	多発性硬化症の病態、症状、診断、治療		
9	多発性硬化症2	多発性硬化症に対するリハビリテーション		
10	筋萎縮性側索硬化症1	筋萎縮性側索硬化症の病態、症状、診断、治療、リハビリテーション		
11	筋萎縮性側索硬化症2	筋萎縮性側索硬化症に対するリハビリテーション		
12	ギラン・バレー症候群	ギランバレー症候群の病態、症状、診断、治療、リハビリテーション		
13	多発性筋炎・皮膚筋炎	多発性筋炎、皮膚筋炎の病態、症状、診断、治療、リハビリテーション		
14	重症筋無力症	重症筋無力症の病態、症状、診断、治療、リハビリテーション		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ(メジカルビュー)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内部障害の理学療法 I		理学療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮内 貴志子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器疾患における病態生理と理学療法の目的と実際について理解する。</li> <li>・呼吸評価と理学療法の目的と効果を学習する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器の機能、呼吸器疾患の病態を理解する。</li> <li>・呼吸器機能評価、呼吸器の障害に対する理学療法について理解する。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 症例を通じてイメージしやすく展開する。		
時間外に必要な学修				
呼吸に関する解剖額と生理学や姿勢や狭客の動きに関する運動学について復習する。				
回	テーマ	内容		
1	呼吸器の解剖と運動	体表面解剖や呼吸運動、聴診について学習する		
2	呼吸器の生理学	換気のみカニズム、換気とガス交換、酸素分圧について		
3	呼吸の生理学	血液ガス検査、呼吸不全の分類とメカニズム 体位による換気と血流について		
4	胸部画像診断	胸部レントゲンについて 体表面と画像診断、聴診と画像診断を考察する		
5	排痰法(無気肺)	画像診断(無気肺と肺水腫など) 肺区域と体位ドレナージ		
6	喀痰吸引	喀痰吸引方法と評価について		
7	呼吸器疾患の病態	閉塞性換気障害と高速性換気障害 急性呼吸不全と慢性呼吸不全		
8	慢性閉塞性換気障害の評価	特徴的な身体所見と画像所見 病気分類		
9	酸素療法	酸素療法に関する方法や効果、適応とリスク管理		
10	慢性閉塞性換気障害 運動療法と酸素療法	コンディショニング ADL指導 レジスタンストレーニング		
11	慢性閉塞性換気障害 生活指導	ADL評価とADL指導 外来患者の対応		
12	人工呼吸管理	人工呼吸管理の目的と効果 NPPVの適応と禁忌		
13	疾患別 理学療法 理学療法 症例検討	閉塞性換気障害の評価と治療内容の検討 症例を通じて理学療法を考える		
14	拘束性換気障害	間質性肺炎の病態と所見		
15	拘束性換気障害の運動療法	酸素療法と運動療法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気がみえるvol.4 呼吸器 (メディクメディア)</li> <li>・フィジカルアセスメント 徹底ガイド 呼吸(中山書店)</li> </ul>		期末試験 確認テスト	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内部障害の理学療法Ⅱ		理学療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中嶋 志保
授業の概要				
主に虚血性心疾患における病態生理および治療の目的と流れを学習する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・典型的な心電図波形が示す不整脈について説明できる。</li> <li>・急性心筋梗塞の病態およびリハビリテーションの流れが説明できる。</li> <li>・各期のリスクおよびリハビリテーションの目標を挙げることができる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 臨床で実践した知識と技術をいかし授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえテキストを読んで予習する。				
回	テーマ	内 容		
1	循環器系の解剖生理	心臓の構造 冠動脈の灌流領域		
2	心臓の電氣的活動	刺激伝導系		
3	心電図の基礎	活動電位と心電図の関係 正常心電図とは		
4	心電図の判読①	刺激の生成異常		
5	心電図の判読②	刺激の伝導異常		
6	心電図の判読③	不整脈の危険度 不整脈の治療		
7	虚血性心疾患の病態と治療	狭心症		
8	虚血性心疾患の病態と治療	心筋梗塞		
9	急性心筋梗塞のリハビリテーション	各病期の病態とリスク、リハビリテーションの目標と流れ		
10	慢性心不全	慢性心不全の病態、リハビリテーションの目標と流れ		
11	虚血性心疾患の評価	理学療法評価		
12	運動耐容能の評価と運動処方	心肺運動負荷試験と運動処方		
13	虚血性心疾患における運動療法とその効果	運動療法の有用性と機序、運動療法の実際		
14	虚血性心疾患患者のADLおよび患者指導	ADL指導、栄養指導、運動指導		
15	症例検討	症例報告を読み、循環器疾患に対する理学療法士の視点を学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT・OT入門 イラストでわかる内部障害 標準理学療法学 専門分野 内部障害理学療法学(医学書院)		期末試験	100%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内部障害の理学療法Ⅲ		理学療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村上 匡司
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>各疾患の病態を理解する</li> <li>生理学的知識に則り運動療法や予防方法などについて考察する</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>各疾患について基本的内容を理解できる</li> <li>運動処方を選定ができる</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		村上 匡司:理学療法士として5年以上の実務経験 これまでの臨床で実践した知識と技術を活かし授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえ教科書や資料等を用いて予習をする。				
回	テーマ	内容		
1	総論	生活習慣病の定義、種類について		
2	動脈硬化について	加齢による動脈硬化のメカニズム、動脈硬化による合併症、治療などについて		
3	高血圧について	高血圧の定義、病態と治療、本態性高血圧と二次性高血圧について		
4	高脂血症について	脂質代謝のしくみ、脂質異常症の分類、治療、運動療法について		
5	糖尿病について	糖尿病の定義と分類、疫学、1型と2型、NIDDMとIDDMについて		
6	糖尿病の病因、症候および合併症について	糖尿病の症状、成因と病態、合併症、血糖調節機構について		
7	糖尿病の検査や診断、治療およびリハビリテーション医学について	糖尿病の診断基準、糖代謝異常の判定区分、検査、治療の概要について		
8	糖尿病の運動療法における適応と禁忌、運動計画について	糖尿病の運動療法についての概要、適応と禁忌、処方の原則について		
9	糖尿病の運動処方立案(1)	処方計画の立案(グループ学習、発表)		
10	糖尿病の運動処方立案(2)	処方計画の立案(グループ学習、発表)		
11	糖尿病の運動処方立案(3)	処方計画の立案(グループ学習、発表)		
12	肥満について、カロリー計算、生活習慣改善のための指導について	肥満症について、肥満の分類、診断と治療、消費カロリーの計算、生活指導について		
13	骨代謝総論	骨粗鬆症の病態、評価、予防などについて		
14	慢性腎臓病に対するリハビリテーション	慢性腎臓病の病態と治療、腎臓リハビリテーションについて		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・糖尿病の理学療法(メジカルビュー)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達障害の理学療法		理学療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮内 貴志子
授業の概要				
小児期の特性から発達障害の特徴及びその理学療法を理解する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>発達障害の成り立ちと障害増が理解できる。</li> <li>発達障害の理学療法について思考できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の経験 成人との違いを画像を多く活用しイメージしやすく展開する。		
時間外に必要な学修				
人間発達で学んだ反射や姿勢反応・平衡反応について復習する。				
回	テーマ	内容		
1	発達障害の理学療法とは	正常発達と原始反射と姿勢反応		
2	正常発達について	粗大運動発達と反射の出現		
3	脳性麻痺(総論)	脳性麻痺の定義と分類		
4	脳性麻痺(痙直型両麻痺)	痙直型両麻痺の特徴と理学療法		
5	脳性麻痺(痙直型両麻痺)	痙直型両麻痺の特徴と理学療法		
6	脳性麻痺(痙直型四肢麻痺)	痙直型四肢麻痺の特徴と理学療法		
7	脳性麻痺(痙直型四肢麻痺)	痙直型四肢麻痺の特徴と理学療法		
8	脳性麻痺(痙直型片麻痺)	痙直型片麻痺の特徴と理学療法		
9	脳性麻痺(アテトーゼ型)	アテトーゼ型の特徴と理学療法		
10	重度心身障害児	重度心身障害分類 合併症を理解する 在宅での生活を想起する		
11	二分脊椎	二分脊椎の病態分類 麻痺症状 合併症の管理		
12	神経筋疾患 (筋ジストロフィー DMD)	遺伝性疾患と神経筋疾患 デュシャンヌ型筋ジストロフィー症の病態と理学療法		
13	神経筋疾患 (その他の筋ジストロフィー)	遺伝性疾患と神経筋疾患 その他の疾患		
14	ダウン症候群	ダウン症の理学療法について		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる 小児理学療法 (医歯薬出版)		期末試験 確認テスト	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ペーパーペーシエントセミナー		理学療法学科/3年	2021/前期	演習・実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	中嶋 志保
授業の概要				
脳血管障害における病態把握のための評価思考過程を脳画像所見から導き出し、一連の検査項目の選定と実施までの能力を身に着ける。				
授業終了時の到達目標				
事例的疾患に関してその病態の理解、評価、評価の解釈、評価に基づいた治療計画など一連の思考ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った技術を伝える。		
時間外に必要な学修				
次回の予習をする。発表時は前もってプレゼン準備をする。				
回	テーマ	内容		
1	脳血管障害の理解に必要な解剖学①	脳の構造、脳血管伝導路		
2	脳血管障害の理解に必要な解剖学②	脳の機能分担 脳血管障害の画像から症状を考える		
3	確認テスト			
4	脳血管障害の病態①	脳梗塞の病態と症状 脳梗塞の経時的変化		
5	脳血管障害の病態②	脳出血の病態と症状 脳出血の経時的変化		
6	確認テスト			
7	症例提示	初期情報から評価項目を列挙する		
8	評価計画と準備①	評価項目の統合		
9	評価計画と準備②	評価計画をたてる 評価チャートの準備		
10	評価実技①	実技の確認と結果の記録①		
11	評価実技②	実技の確認と結果の記録②		
12	確認テスト			
13	評価結果から治療プラン立案までの一連の流れ①	問題点の列挙ーゴール設定ー治療プランの作成		
14	評価結果から治療プラン立案までの一連の流れ②	発表		
15	サマリー作成			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・病気がみえるvol.7 脳・神経 (メディックメディア) ・リハに役立つ脳画像 (メジカルビュー社)		期末試験	100%	

# 地域理学療法学

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域理学療法学		理学療法学科/2年	2021/後期	講義・実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	坂口 千恵美
授業の概要				
対象者の機能的な改善、活動・参加レベルへの結びつきを図るとともに、地域(在宅)で安心してその人らしい暮らしができるよう支援し、地域住民がともにクラス体性づくりをするという視点が重要である。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習場面で施設の概要・目的などを理解した状態で臨むことができる。</li> <li>・訪問リハビリ、デイサービス、デイケア、老人施設などで働くことができる。</li> <li>・小児・老人・身障者の日常生活での問題点を解決する社会資源を理解できる。</li> <li>・地域包括ケアシステムを理解する。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 訪問リハビリ、介護老人保健施設、デイサービス、介護老人福祉施設での経験をいかす		
時間外に必要な学修				
ボランティアへの積極的な参加や地域活動への興味をもつこと。				
回	テーマ	内容		
1	総論	地域リハビリテーションの概念 地域理学療法概念		
2	地域リハビリテーションの関連制度と関連法規	医療保険制度・介護保険制度・障害者総合支援法・バリアフリー法・地域における社会資源・地域包括システム		
3	地域理学療法の実際① 訪問系理学療法	訪問系の理学療法士に求められる役割 訪問理学療法での評価・治療		
4	地域理学療法の実際② 通所系理学療法	通所系理学療法の目的 通所系理学療法の評価・治療		
5	地域理学療法の実際③ 施設系理学療法	介護老人保健施設における理学療法 特別養護老人ホームにおける理学療法		
6	地域理学療法の実際④ 終末期における理学療法	終末期における疾患・終末期と終の棲家 終末期における理学療法の実際		
7	予防分野のリハビリテーション① サルコペニアと介護予防	サルコペニアの理解 介護予防教室運営のコツと実践例		
8	予防分野のリハビリテーション② 認知予防	認知症予防の実際 認知症予防教室運営について		
9	予防分野のリハビリテーション③ 転倒予防	転倒予防の実際 転倒予防教室運営について		
10	行政における療法士の役割	行政療法士の役割機能 地域包括ケアにおける行政療法士の役割		
11	レクリエーション研究①	障害高齢者、健康予防教室、年少児保育、学童保育などにおける理学療法士としてのレクリエーションを考える		
12	レクリエーション研究②	発表準備		
13	レクリエーション発表①	学生を対象者に見立て、目的に沿った内容、発表を行う。 また対象者としての経験を行い評価を行う。		
14	レクリエーション発表②	学生を対象者に見立て、目的に沿った内容、発表を行う。 また対象者としての経験を行い評価を行う。		
15	認知症サポーター研修	高松市の保健師により認知症サポーター研修を受講し、 認知症サポーターとなる。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
授業配布資料		期末試験 確認テスト・課題	50% 50%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活環境学 I		理学療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	坂口 千恵美
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本における障害者や高齢者が安全に、安心して生活できるよう、理学療法士として助言や情報の提供を上手くできるようになる。</li> <li>・患者を取り巻く環境について、社会資源や福祉用具について学ぶ。</li> <li>・毎時間、復習を目的とした小テストを実施する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や障害者の生活環境について意識づけできる。</li> <li>・保健医療福祉を必要としている他者にうまく伝授できる。</li> <li>・障害者・高齢者の福祉用具を用いた生活環境を整えることができる。</li> <li>・国家試験の福祉用具、介護保険問題を解けるようになる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 福祉住環境コーディネーター1級・福祉用具プランナー・介護支援専門員の実務をいかす		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト・確認テストの対策や知識の定着の為、毎回復習を行う。</li> <li>・参考書の熟読、授業資料の整理を行う。</li> </ul>				
回	テーマ	内 容		
1	生活環境学の概念と障害の捉えかた	ICIDHとICFの理解 環境因子について		
2	日本における生活環境の特徴と課題	日本家屋が高齢者、障害者に及ぼす影響 高齢化率と日本社会について		
3	障害者福祉施策の概要	バリアフリーとユニバーサルデザインを考える		
4	社会保障について①	国民皆保険と国民皆年金について		
5	社会保障について②	介護保険について①		
6	社会保障について③	介護保険について②		
7	福祉用具(移動補助機器)①	つえ・歩行器・歩行車		
8	福祉用具(移動補助機器)②	車いす		
9	福祉用具(移動補助機器)③	疾患、障害別による移動補助機器を考える		
10	福祉用具(移乗機器)①	リフトとスリング、トランスファー機器		
11	福祉用具(移乗機器)②	疾患、障害別による移乗機器を考える		
12	福祉用具(生活関連機器)①	ベッド周辺機器、排泄用具他		
13	福祉用具(生活関連機器)②	疾患、障害別による生活関連機器を考える		
14	まとめ①	まとめ		
15	まとめ②	国試の過去問で知識確認		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
シンプル理学療法学作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト(南江堂)		期末試験 確認テスト	50% 50%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活環境学Ⅱ		理学療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	坂口 千恵美
授業の概要				
症例を通して、在宅生活における環境設定を考える。				
授業終了時の到達目標				
症例の全体像より、必要な評価、アプローチを考えることができるようになる。 在宅生活を行う上での住宅における問題点の抽出とそれに対する改善策を立案することができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 福祉住環境コーディネーター1級・福祉用具プランナー・介護支援専門員の実務をいかす		
時間外に必要な学修				
小テスト・確認テストの対策や知識の定着の為、毎回復習を行う。 参考書の熟読、授業資料の整理を行う。				
回	テーマ	内 容		
1	日本における生活環境の特徴と課題	日本家屋の問題		
2	生活環境整備に関する法的制度	介護保険その他の諸制度と生活環境		
3	障害者について	障害者手帳など		
4	生活環境の基本①	段差・スペース・床材		
5	生活環境の基本②	手すりの取り付け 建具への配慮		
6	生活環境の基本③	玄関の整備 福祉用具の活用		
7	生活環境の基本④	高齢者、障害者向けの環境整備 トイレの基本・トイレの福祉用具		
8	生活環境の基本⑤	台所、食堂の環境整備・浴室、脱衣室の環境整備・廊下、 階段の環境整備		
9	疾患別環境整備(CVA)	片麻痺患者の環境整備		
10	脊髄損傷の生活環境1	実際に受傷された方(田村さん)に來校して頂き、現状を 聞かせて頂く(OTと合同授業)		
11	疾患別環境整備(進行性疾患)	パーキンソン、ALSなど進行性疾患患者の住環境		
12	疾患別環境整備(整形疾患・脊損)	RA、OA疾患患者の住環境 脊損・頸損患者の住環境		
13	脊髄損傷の生活環境2	頸損・脊損の方6名來校。実際の生活の状況や身体能力を 見せて頂く。(OTとの合同授業)		
14	脊髄損傷の生活環境3	頸損・脊損の方6名來校。実際の生活の状況や身体能力を 見せて頂く。(OTとの合同授業)		
15	まとめ	期末試験対策		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
シンプル理学療法学作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト(南江堂)		期末試験 確認テスト	50% 50%	

# 臨床実習



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
見学実習		理学療法学科/1年	2021/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	5回	1単位(45時間)	必須	村上 匡司・坂口 千恵美
<b>実習の概要</b>				
学校が連携している臨床経験5年以上の理学療法士が勤務する医療施設または介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
<b>授業終了時の到達目標</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健、医療、福祉の各分野の職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持った行動がとれる。</li> <li>・臨床実習をとおして、自己の理学療法士としての自覚を高めることができる。</li> <li>・実践的コミュニケーション能力の習得方法を学ぶ。</li> <li>・模倣、実践、振り返りの中で習得方法を学ぶ。</li> </ul>				
<b>実務経験有無</b>		<b>実務経験内容</b>		
有		村上 匡司：理学療法士として5年以上の実務経験 坂口千恵美：理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。		
<b>時間外に必要な学修</b>				
実習の目的、各自の目標を明確にして臨み、毎日のまとめと予習を行うこと。				
<b>実習内容</b>				
1. 各教育領域における実習内容				
1) 情意領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士による実践的コミュニケーションを体感する。</li> <li>・患者様の命と人生を左右する臨床現場の中で、年代層や生活背景、人格や会話力など多種多様なケースに対し、専門家としての適切な振る舞いや対応、会話などを見学する。</li> <li>・早期より地域に目を向け、通所もしくは訪問リハビリテーションの見学などを通じて、地域包括ケアシステムにおける理学療法士や関連専門職の役割を理解する。</li> <li>・診療補助体験や、患者像・障害像の把握を目的とした情報収集や問診等の体験を通じて、専門家としてのあるべき姿に気づく。</li> </ul>				
2) 認知領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士が、「どんな障害を対象に、どのような方法で、何を目的に、どのような工夫や注意をしながら」理学療法を実施しているかを自ら聞きながら見学する。</li> <li>・臨床実習指導者にヒントを与えてもらい、学内で学んだ知識を想起する。</li> </ul>				
3) 精神運動領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価学で学んだ形態測定、関節可動域測定を臨床実習指導者の指示監督のもと経験する。</li> <li>・コミュニケーション論等で学んだ面接相談技術を用いて、臨床実習指導者の指示監督のもと医療面接を経験する。</li> </ul>				
2. 目標達成のため教育ツールを使用する				
1) 目標達成のため以下の①～③の教育ツールを使用する				
2) ①～③の教育ツールは、臨床実習指導者に毎日提出しチェックを受ける。				
①Daily Report      ②Clinical Record      ③自己学習ノート				
<b>教科書・教材</b>		<b>評価基準</b>		<b>評価率</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の手引き</li> <li>・配布資料</li> <li>・Daily Report</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の心得</li> <li>・自己学習ノート</li> <li>・Clinical Record</li> </ul>		100%
		<b>実習・実技評価</b>		<b>その他</b>

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価実習 I		理学療法学科/2年	2021/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	10回	2単位(90時間)	必須	横川 光代・宮内 貴志子
授業の概要				
学校が連携している臨床経験3年以上の理学療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者に関する情報収集や問診から、その抱える問題、ディマンド、ニーズを把握すると共に、検査測定によって得られたデータの統合作業を臨床実習指導者の指導の下で繰り返し行い、認知的スキル(情報処理過程)を学ぶ。</li> <li>受動的学習から能動的学習へとシフトさせることを学ぶ。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		横川 光代: 理学療法士として5年以上の実務経験 宮内貴志子: 理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
翌日の実習計画を踏まえ、教科書や資料などを参考に事前準備を行う。				
回	テーマ	内容		
1. 各教育領域における実習内容				
1) 情意領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> <li>この過程を通じ、多くの気づきを得ることで、今までの受動的学習から患者志向の能動的学習へシフトさせる。</li> </ul>				
2) 認知領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> <li>理学療法士が実践している危険の予見や禁忌事項の確認といったリスク管理について考える。</li> <li>患者情報を既存の資料や、直接問診、間接問診によって収集したデータと、検査測定を通して得たデータを指導者の詳細な解説を受けながら統合を繰り返し模倣することで情報処理過程を学ぶ。</li> </ul>				
3) 精神運動領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> <li>評価学で学んだ徒手筋力検査、反射検査、筋緊張検査等を臨床実習指導者の指示監督のもと経験する。</li> <li>臨床実習指導者の指示監督下での医療面接で、患者の生活状況や家族、社会での役割、かかえる問題と患者のディマンドやニーズを理解し患者像を把握する。</li> </ul>				
2. 目標達成のため教育ツールを使用する				
1) 目標達成のため以下の①～④の教育ツールを使用する。				
2) ①～③の教育ツールは、臨床実習指導者に毎日提出しチェックを受ける。				
①Daily Report      ②Clinical Record (Type1、Type2)      ③自己学習ノート ④学生中間評価実施表				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>実習の手引き</li> <li>配布資料</li> <li>Daily Report</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の心得</li> <li>自己学習ノート</li> <li>Clinical Record</li> </ul>	総括評定	100%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価実習Ⅱ		理学療法学科/2年	2021/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	10回	2単位(90時間)	必須	横川 光代・宮内 貴志子
授業の概要				
学校が連携している臨床経験3年以上の理学療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価を通して得られた対象者のデータを学生自身が指導者と何度もディスカッションを重ねながら処理し、認知的スキルを高める方法を学ぶ。</li> <li>・学生は認知領域スキルを想起レベルから解釈レベルへ、精神運動領域スキルを模倣レベルからコントロールレベルへ引き上げる学習方法を学ぶ。</li> <li>・「経験→振り返り→気づき→別の経験の中での実践」といった取り組みの中で実践力を身につける。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		横川 光代：理学療法士として5年以上の実務経験 宮内貴志子：理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
翌日の実習計画を踏まえ、教科書や資料などを参考に事前準備を行う。				
回	テーマ		内容	
1. 各教育領域における実習内容				
1) 情意領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この過程を経ることにより、「できること」が増え、「やりたいこと」が表出される良循環を形成する。</li> </ul>				
2) 認知領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価実習Ⅰで経験した認知的スキルを基に、再度患者の情報、検査結果等のデータ処理過程を繰り返し経験することで、認知領域を想起レベルから解釈レベルへと引き上げる。</li> <li>・検査を通して得たデータの処理過程を、学生自身が指導者と何度もディスカッションを重ねながら患者像・障害像の把握過程を積み重ね、データの必要性、関連性、重要性の統合体験を通して認知領域の目標達成に臨む。</li> </ul>				
3) 精神運動領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神運動領域を模倣からコントロールレベルへ引き上げるトレーニングを臨床実習指導者の指示監督下で経験を積む。</li> </ul>				
2. 目標達成のため教育ツールを使用する				
1) 目標達成のため以下の①～④の教育ツールを使用する。				
2) ①～③の教育ツールは、臨床実習指導者に毎日提出しチェックを受ける。				
①Daily Report                      ②Clinical Record (Type1、Type2)    ③自己学習ノート ④学生中間評価実施表				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の手引き</li> <li>・配布資料</li> <li>・Daily Report</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の心得</li> <li>・自己学習ノート</li> <li>・Clinical Record</li> </ul>	総括評定	100%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅰ		理学療法学科/3年	2021/通年	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	45回	9単位(405時間)	必須	中嶋 志保・田中 裕介
授業の概要				
学校が連携している臨床経験3年以上の理学療法士が勤務する医療施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的スキルを「複雑な障害像を呈しない一般的な疾患に対し、ある程度の助言・指導のもとに理学療法が行えるレベル」まで引き上げる。</li> <li>認知的スキルのトレーニングを積み重ね、解決策を講じる意思決定過程を指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の構築化を学ぶ。</li> </ul>				
有	中嶋 志保：理学療法士として5年以上の実務経験 田中 裕介：理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。			
時間外に必要な学修				
翌日の計画を踏まえ教科書や資料等を参考に事前準備と予習をする				
内 容				
1. 各教育領域における実習内容				
1) 情意領域の実習内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>学生自らが、能動的に働き、数多くの体験を通じて、対象者の抱える問題を理学療法という手段で解決できることを体感または実感する。</li> <li>意欲を湧きあがらせ、専門職としての自覚と患者志向の考えを確かなものにする。</li> </ul>				
2) 認知領域の実習内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>評価実習で経験した認知的スキル(結果の解釈レベル)をさらに積み重ね、解決策(治療計画の意思決定といった情報処理過程を、指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の関連づけと構造化を学ぶ。</li> <li>認知的スキルを解釈レベルから問題解決レベルへと進める。</li> </ul>				
3) 精神運動領域の実習内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>評価学で学んだ反射検査、筋緊張検査、感覚検査、協調性検査等を</li> <li>模倣からコントロールレベルへシフトさせるトレーニングを臨床実習指導者の指示監督下で経験を積む。</li> </ul>				
2. 目標達成のため教育ツールを使用する				
1) 目標達成のため以下の①～④の教育ツールを使用する。				
2) ①～③の教育ツールは、臨床実習指導者に毎日提出しチェックを受ける。				
①Daily Report                      ②Clinical Record (Type1、Type2)    ③自己学習ノート ④学生中間評価実施表				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>実習の手引き</li> <li>配布資料</li> <li>Daily Report</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の心得</li> <li>自己学習ノート</li> <li>Clinical Record</li> </ul>	総括評定	100%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅱ		理学療法学科/3年	2021/通年	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	45回	9単位(405時間)	必須	中嶋 志保・田中 裕介
授業の概要				
学校が連携している臨床経験3年以上の理学療法士が勤務する医療施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的スキルを「複雑な障害像を呈しない一般的な疾患に対し、ある程度の助言・指導のもとに理学療法が行えるレベル」まで引き上げる。</li> <li>認知的スキルのトレーニングを積み重ね、解決策を講じる意思決定過程を指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の構築化を学ぶ。</li> </ul>				
有	中嶋 志保：理学療法士として5年以上の実務経験 田中 裕介：理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。			
時間外に必要な学修				
翌日の計画を踏まえ教科書や資料等を参考に事前準備と予習をする				
内 容				
1. 各教育領域における実習内容				
1) 情意領域の実習内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>学生自らが、能動的に働き、数多くの体験を通じて、対象者の抱える問題を理学療法という手段で解決できることを体感または実感する。</li> <li>意欲を湧きあがらせ、専門職としての自覚と患者志向の考えを確かなものにする。</li> </ul>				
2) 認知領域の実習内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>評価実習で経験した認知的スキル(結果の解釈レベル)をさらに積み重ね、解決策(治療計画の意思決定といった情報処理過程を、指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の関連づけと構造化を学ぶ。</li> <li>認知的スキルを解釈レベルから問題解決レベルへと進める。</li> </ul>				
3) 精神運動領域の実習内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>評価学で学んだ反射検査、筋緊張検査、感覚検査、協調性検査等を</li> <li>模倣からコントロールレベルへシフトさせるトレーニングを臨床実習指導者の指示監督下で経験を積む。</li> </ul>				
2. 目標達成のため教育ツールを使用する				
1) 目標達成のため以下の①～④の教育ツールを使用する。				
2) ①～③の教育ツールは、臨床実習指導者に毎日提出しチェックを受ける。				
①Daily Report                      ②Clinical Record (Type1、Type2)    ③自己学習ノート ④学生中間評価実施表				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>実習の手引き</li> <li>配布資料</li> <li>Daily Report</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の心得</li> <li>自己学習ノート</li> <li>Clinical Record</li> </ul>	総括評定	100%

専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ

令和3年度

授 業 概 要

2021年4月 発行

発 行 者 専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ  
〒761-0156 香川県高松市上天神町722-1  
TEL:087-815-3300 FAX:087-815-2111  
URL:<http://www.anabuki-college.net/ark/>